

薬師遺跡

道路改良工事・下水道工事・配水管布設工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2003.3

石川県小松市教育委員会

例　　言

1. 本書は、小松市が行う道路改良工事・下水道工事・配水管布設工事に伴い、小松市教育委員会が実施した薬師遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 発掘調査及び出土品整理は、小松市教育委員会が実施した。

3. 発掘調査及び出土品整理に係る費用は、小松市が負担した。

4. 発掘調査の調査地・調査面積・調査期間・調査担当者は次のとおりである。

《調　　査　　地》石川県小松市矢崎町地内

《調　　査　　面　　積》平成11年度調査 2,000m²

　　　　　　　平成14年度調査 900m²

《調　　査　　期　　間》平成11年度調査 平成11年11月2日～11月25日

　　　　　　　平成14年度調査 平成14年6月10日～8月8日

《調査担当者》平成11年度調査 横田　誠・橋本正博・福海貴子

　　　　　　　平成14年度調査 坂下義視

5. 報告書の作成は坂下が担当した。

6. 本書の挿図、写真図版の指示は次のとおりである。

(1) 方位はすべて真北であり、水平基準は海拔高(m)で示してある。

(2) 挿図の縮尺は図内に表示した。

(3) 遺物実測図の番号は、本文・遺物観察表・写真図版の番号と一致する。

(4) 土器実測図において、断面に黒塗りが須恵器を、白抜きが土師器及び他の土器を
(m)示し、内外面にスクリーントーンを貼ってあるものは、細かい目が赤彩を、荒い
目が黒色を示している。

(5) 遺構の略号は、S B = 挖建柱建物、S I = 竪穴住居、S K = 土坑、P = ピットである。

7. 本調査における出土遺物・記録資料は、小松市教育委員会が保存管理している。

8. 発掘調査及び報告書の作成にあたり、地元関係者をはじめ多くの方々に御協力頂いた、記
して感謝申し上げたい。

目 次

| | |
|---------------------|----|
| 第1章 位置と環境 | 1 |
| 第1節 地理的環境 | 1 |
| 第2節 歴史的環境 | 2 |
| 第2章 経緯と経過 | 6 |
| 第1節 調査に至る経緯 | 6 |
| 第1項 平成11年度の調査 | 6 |
| 第2項 平成14年度の調査 | 6 |
| 第2節 調査の経過 | 7 |
| 第1項 現地調査 | 7 |
| 第2項 出土品整理 | 7 |
| 第3章 遺構と遺物 | 20 |
| 第1節 平成11年度の調査 | 20 |
| 第2節 平成14年度の調査 | 25 |
| 第4章 まとめ | 33 |
| 写真図版 1 ~ 8 | |

報告書抄録

挿図・表目次

| | | | |
|----------------------------|-----|----------------------------|----|
| 第1図 小松市の位置 | 1 | 第14図 平成14年度調査区遺構平面図1 | 17 |
| 第2図 薬師遺跡の位置 | 1 | 第15図 平成14年度調査区遺構平面図2 | 18 |
| 第3図 薬師遺跡と周辺の遺跡 | 4・5 | 第16図 平成14年度調査区遺構平面図3 | 19 |
| 第4図 調査区の位置 | 8 | 第17図 遺構実測図1 | 21 |
| 第5図 平成11年度調査区グリッド配置図 | 9 | 第18図 遺構実測図2 | 22 |
| 第6図 平成14年度調査区グリッド配置図 | 9 | 第19図 遺構実測図3 | 23 |
| 第7図 平成11年度調査区遺構平面図1 | 10 | 第20図 遺構実測図4 | 24 |
| 第8図 平成11年度調査区遺構平面図2 | 11 | 第21図 遺構実測図5 | 25 |
| 第9図 平成11年度調査区遺構平面図3 | 12 | 第22図 遺物実測図1 | 26 |
| 第10図 平成11年度調査区遺構平面図4 | 13 | 第23図 遺物実測図2 | 27 |
| 第11図 平成11年度調査区遺構平面図5 | 14 | 第24図 遺物実測図3 | 28 |
| 第12図 平成11年度調査区遺構平面図6 | 15 | 第25図 遺物実測図4 | 29 |
| 第13図 平成11年度調査区遺構平面図7 | 16 | | |

表1 薬師遺跡周辺の遺跡一覧表 3

表2 遺物観察表 30~32

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境

薬師遺跡は石川県小松市矢崎町地内に所在する。小松市は石川県の南西部に位置し、人口・面積とも金沢市に次ぐ県下第二の都市である。市街地西部には小松空港が存在し、石川県のみならず北陸の空の玄関口となっている。

市域は北西部で日本海に面し、西は加賀市・山中町、東は白峰村・鳥越村・尾口村、北は辰口町・寺井町・根上町、南は市域の最高峰である大日山（標高1,369m）を境に福井県勝山市に接する。南北に長い市域は、大部分が山地と山地に続く丘陵地で占められ、北西部の日本海に面した平野部に市街地と農地が集中する。行政上、人口の集中するこの平野部を対象として、北部・東部・中部・南部の各地区に呼称区分している。

市域の北部地区には、手取川扇状地の南縁と接して梯川の沖積平野が広がる。梯川は、県下では手取川に次ぐ規模をもつ（流長34.65km）一級河川である。古来より幾度となく氾濫を起こしてきた河川であるが、稲作に適した立地からその流域には現在も水稻単作を中心とする農業地帯が広がっている。

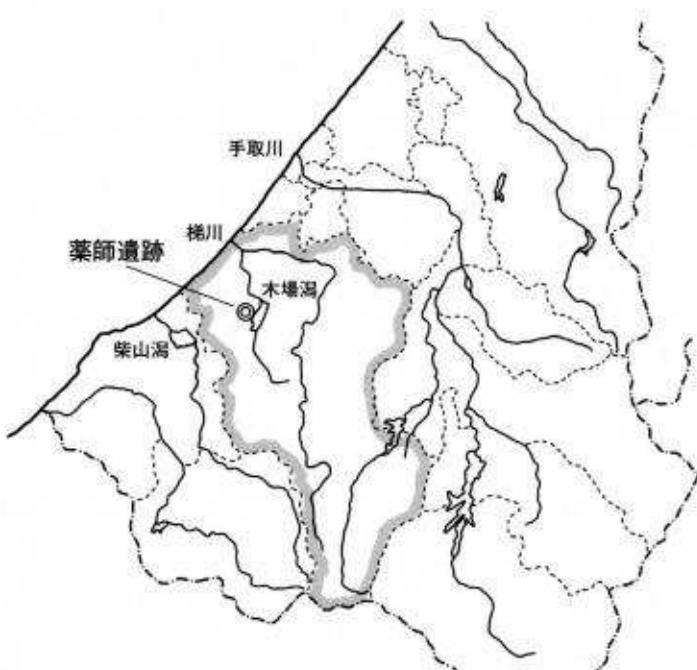
矢崎町が所在する中南部地区は、加賀三湖（柴山潟・今江潟・木場潟）、三湖周辺に形成された潟埋積平野、そして加賀三湖及び潟埋積平野に囲まれた標高10~20mの月津台地からなる。加賀三湖はかつては日本海の入江であったが海岸部の砂丘地帯・砂州によって遮断された潟湖



第1図 小松市の位置

である。柴山潟・木場潟はそれぞれ今江潟へ連なり、今江潟は梯川を経て日本海と結ばれていたが、排水路が限られていたため降雨時には周辺の水田が冠水するなどの被害にあった。このため、昭和27年より大規模な干拓事業が実施され、今江潟は消滅、柴山潟も3分の2を失い、かつての水郷風景も幻の景観となってしまった。

薬師遺跡は、加賀三湖の一つである木場潟の西方約400m、月津台地の北東の縁辺部に位置している。



第2図 薬師遺跡の位置

第2節 歴史的環境

額見町西遺跡(9)や念佛林遺跡(17)では、旧石器時代末から縄文時代草創期にかけての石器が出土しているが、単独での出土であり実態は不明である。集落として明確な展開が見られるのは縄文時代前期からである。この時代には加賀三湖は入り江の状態であったと考えられており、木場潟東南岸丘陵縁の大谷山貝塚(58)など、貝塚を伴う集落が入り江に面して営まれている。縄文時代中期には、茶臼山A遺跡(11)、念佛林遺跡(17)、念佛林南遺跡(19)、今江五丁目遺跡(72)、五郎座貝塚(76)など、台地上に多くの集落が営まれるようになる。念佛林遺跡(17)では大型の長楕円形の堅穴住居を含む堅穴住居群が確認されている。しかし、縄文時代後期以降は、遺跡の分布は丘陵部に移り月津台地上からしだいに姿を消してゆく。

次に月津台地に集落が展開するのは弥生時代末から古墳時代初頭である。額見町西遺跡(9)、念佛林南遺跡(19)では良好な堅穴住居跡を検出している。この時期以降、古墳時代を通じて遺跡数は増加する。古墳時代後期には念佛林南遺跡(19)、矢田B遺跡(22)、矢田野遺跡(24)、刀何理遺跡(30)などの集落が見られ、同時期の古墳の分布との重なりを見せている。

月津台地上には多数の後期古墳が分布している。台地北端には、狐山古墳(44)、切石積横穴式石室を持つ矢崎B古墳(69)、土百古墳(70)、御幸塚古墳(73)が位置し、柴山潟に面する台地の北西縁には月津台地最大の前方後円墳である白のはぞ古墳(全長52m)(6)、左門殿古墳(8)、径約25m二段築成の円墳である茶臼山古墳(12)が位置する。柴山潟に通ずる馬渡川の開析谷周囲には古墳が集中しており、念佛林古墳(18)、念佛塚古墳(20)、矢田借屋古墳群(23)、矢田野古墳群(25)、百人塚古墳(26)、横穴式石室内に家型石棺を持つ丸山古墳(28)、家型石棺を持つ狐森塚墳(29)が位置し、谷奥部の栗津駅周辺には、形象埴輪13体を含む多数の埴輪が出土した矢田野エジリ古墳(33)、箕輪塚古墳(34)、切石積横穴式石室を持つ石山古墳(35)が存在する。矢田野エジリ古墳から出土した埴輪は、平成9年に国の重要文化財に指定されている。

古代以降の遺跡としては、柴山潟に面した額見町遺跡(5)、額見町西遺跡(9)、矢田新遺跡(27)、木場潟に面した薬師遺跡、島遺跡(46)、今江五丁目遺跡(72)などが知られている。中でも、額見町遺跡(5)ではL字型カマドをもつ堅穴住居群、鍛冶関連遺物や土器焼成遺構が確認されており、渡来系技術者の存在が伺われる。額見町遺跡は、その規模・内容からみて古代の江沼郡額田郷に比定されている当地域の中心的な集落であったと考えられる。

二ツ梨・戸津町周辺の丘陵部には、県内最大規模をもつ須恵器・土師器の窯跡である南加賀古窯跡群がみられる。中世陶への転換期に若干ブランクはあるものの、5世紀末ないし6世紀初頭の須恵器生産開始から約900年間、連綿と生産を行っている。また、蓮代寺町から那谷町にかけての丘陵部には南加賀古窯跡群と重複して南加賀製鉄遺跡群が存在する。

中世以降については、額見町遺跡(5)、額見町西遺跡(9)、矢田新遺跡(27)、刀何理遺跡(30)、島遺跡(46)、木場B遺跡(61)、矢崎宮の下遺跡(68)、蓮代寺跡(79)、三谷大谷遺跡(87)などが確認されているが、集落の動向ははっきりしていない。

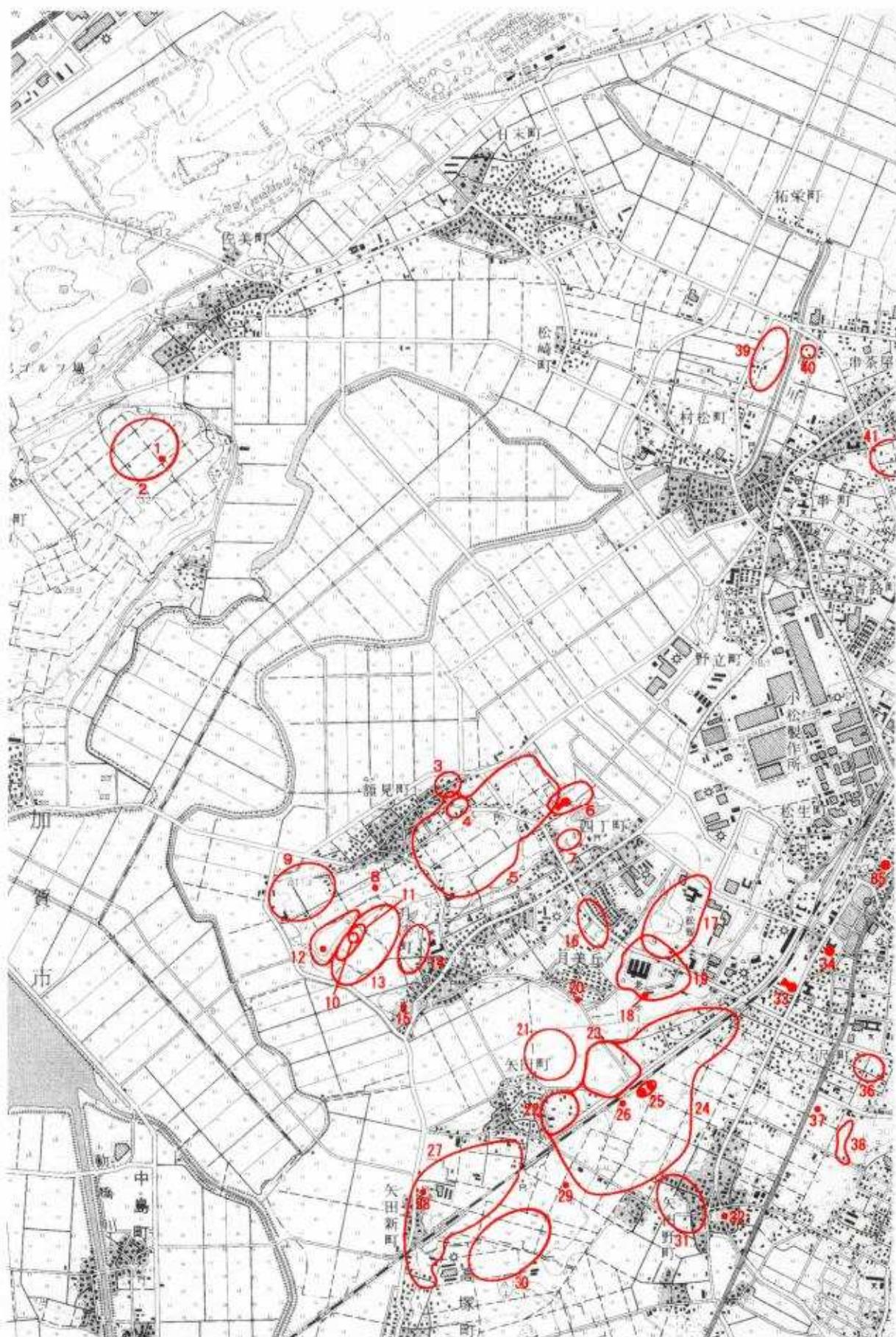
引用・参考文献

- 石川県教育委員会 1992 『石川県遺跡地図』
石川県教育委員会・財石川県埋蔵文化財センター 2002 『三谷大谷遺跡』
小松市教育委員会 1995 『念佛林南遺跡II』
財石川県埋蔵文化財センター 2000 『額見町西遺跡』

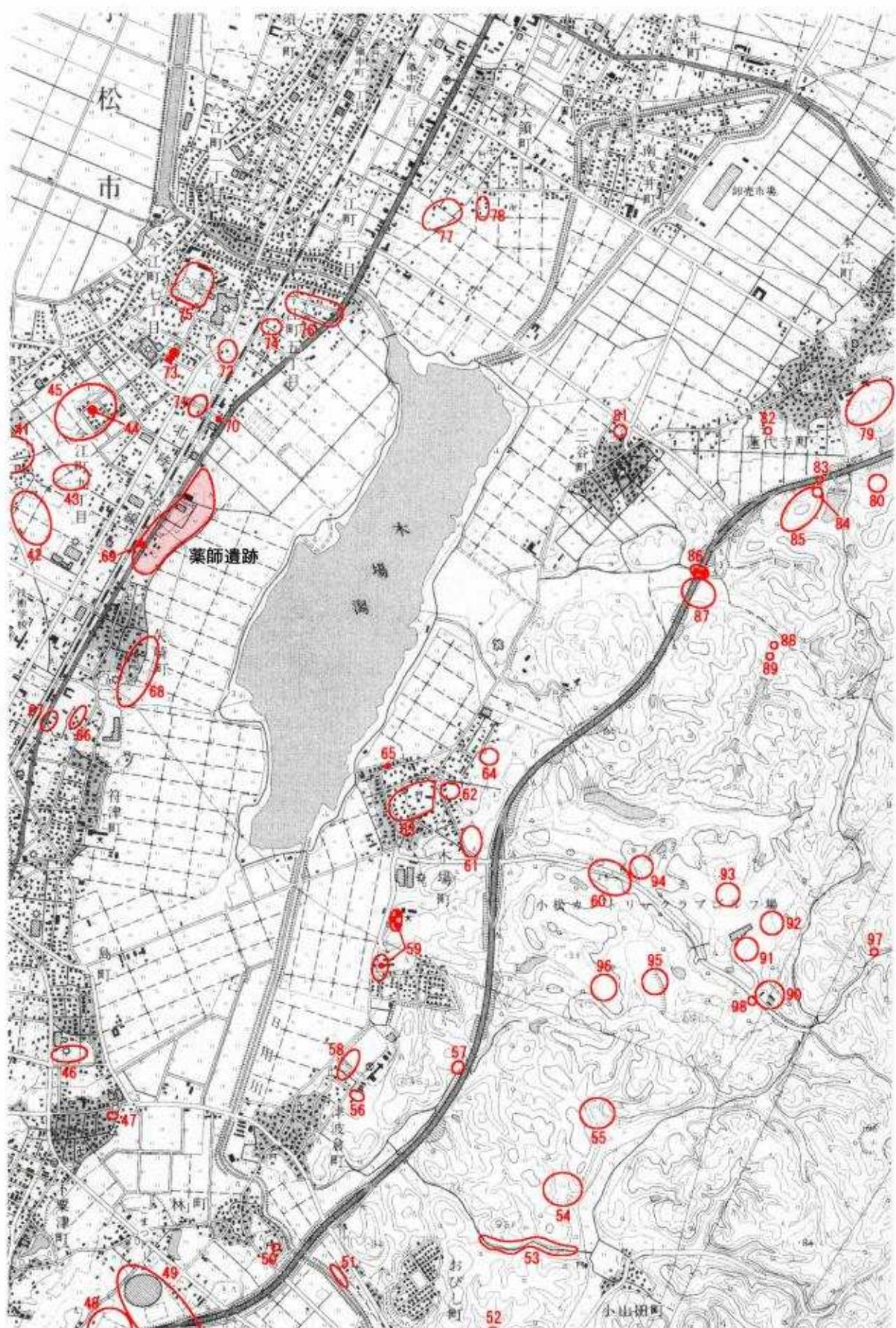
表1 薬師遺跡周辺の遺跡一覧表

| 番号 | 名 称 | 種 別 | 時 代 |
|----|-----------|--------|-------|
| | 薬師遺跡 | 集落跡 | 縄文・奈良 |
| 1 | 佐美経塚 | 経塚 | 不詳 |
| 2 | 山の上遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 3 | 額見神社前A遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 4 | 額見神社前B遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 5 | 額見町遺跡 | 集落跡 | 奈良～中世 |
| 6 | 白のほぞ古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 7 | 串町遺跡 | 散布地 | 縄文・古代 |
| 8 | 左門殿古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 9 | 額見町西遺跡 | 集落跡 | 弥生～中世 |
| 10 | 茶臼山祭祀遺跡 | 祭祀 | 奈良 |
| 11 | 茶臼山A遺跡 | 散布地 | 不詳 |
| 12 | 茶臼山古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 13 | 茶臼山B遺跡 | 散布地 | 縄文・古代 |
| 14 | 月津オカ遺跡 | 散布地 | 古代～中世 |
| 15 | 興宗寺古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 16 | 月津新遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 17 | 念仏林遺跡 | 集落跡 | 縄文 |
| 18 | 念仏林古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 19 | 念仏林南遺跡 | 集落跡 | 縄文～古墳 |
| 20 | 念仏塚古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 21 | 矢田A遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 22 | 矢田B遺跡 | 散布地 | 古墳 |
| 23 | 矢田借屋古墳群 | 古墳 | 古墳 |
| 24 | 矢田野遺跡 | 散布地 | 古墳 |
| 25 | 矢田野古墳群 | 古墳 | 古墳 |
| 26 | 百人塚古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 27 | 矢田新遺跡 | 集落跡 | 奈良・中世 |
| 28 | 丸山古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 29 | 狐森塚古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 30 | 刀何理遺跡 | 散布地 | 古墳・中世 |
| 31 | 矢田野神社前遺跡 | 散布地 | 平安 |
| 32 | 中村古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 33 | 矢田野エジリ古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 34 | 箕輪塚古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 35 | 石山古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 36 | 島B遺跡 | 散布地 | 奈良・平安 |
| 37 | 島経塚 | 経塚 | 不詳 |
| 38 | 下栗津横穴 | 横穴 | 不詳 |
| 39 | 日末瓦窯跡 | 瓦窯跡 | 江戸前期 |
| 40 | 串古窯跡 | 窯跡 | 江戸前期 |
| 41 | 串カンノヤマA遺跡 | 散布地 | 奈良 |
| 42 | 串カンノヤマB遺跡 | 散布地 | 古墳 |
| 43 | 今江向ノ山遺跡 | 集落跡 | 弥生 |
| 44 | 狐山古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 45 | 狐山遺跡 | 散布地 | 古代 |
| 46 | 島遺跡 | 集落跡 | 弥生～中世 |
| 47 | 下栗津1・2号横穴 | 横穴 | 不詳 |
| 48 | 林超勝寺跡 | 寺院跡 | 中世 |
| 49 | 林遺跡 | 窯跡・製鉄跡 | 古墳～平安 |

| 番号 | 名 称 | 種 別 | 時 代 |
|----|--------------|--------|-------|
| 50 | 林八幡神社経塚 | 経塚 | 鎌倉 |
| 51 | 井口遺跡 | 散布地 | 奈良・平安 |
| 52 | 井口エンドウ遺跡 | 製鉄跡 | 不詳 |
| 53 | 小山田コガダニ遺跡 | 製鉄跡 | 不詳 |
| 54 | 小山田オクサダニ遺跡 | 製鉄跡 | 不詳 |
| 55 | 小山田スギトギ遺跡 | 製鉄跡 | 不詳 |
| 56 | 津波倉ホットジ遺跡 | 横穴 | 室町末期 |
| 57 | 津波倉ハクマイダニ遺跡 | 製鉄跡 | 不詳 |
| 58 | 大谷山貝塚 | 貝塚 | 縄文 |
| 59 | 木場古墳群 | 古墳 | 古墳 |
| 60 | 木場A遺跡 | 製鉄跡 | 奈良 |
| 61 | 木場B遺跡 | 散布地 | 平安・中世 |
| 62 | 木場C遺跡 | 散布地 | 弥生 |
| 63 | 池田城跡 | 城跡 | 不詳 |
| 64 | 木場温泉遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 65 | 木場古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 66 | 符津A遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 67 | 符津B遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 68 | 矢崎宮の下遺跡 | 集落 | 縄文～中世 |
| 69 | 矢崎B古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 70 | 土百古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 71 | 土百遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 72 | 今江五丁目遺跡 | 集落跡 | 縄文・古代 |
| 73 | 御幸塚古墳 | 古墳 | 古墳 |
| 74 | 今江横穴 | 横穴 | 古墳 |
| 75 | 御幸塚城跡 | 城跡 | 室町 |
| 76 | 五郎座貝塚 | 貝塚 | 縄文 |
| 77 | 大領遺跡 | 散布地 | 奈良・平安 |
| 78 | 浅井畠古戦場 | 古戦場 | 安土桃山 |
| 79 | 蓮代寺跡 | 寺院跡 | 中世 |
| 80 | 蓮代寺ガッショウタン遺跡 | 製鉄跡 | 古墳末期 |
| 81 | 三谷遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 82 | 蓮代寺瓦窯跡 | 瓦窯跡 | 江戸前期 |
| 83 | 蓮代寺古窯跡 | 窯跡 | 江戸末期 |
| 84 | 蓮代寺ムコンヤマ遺跡 | 製鉄跡 | 平安 |
| 85 | 蓮代寺城跡 | 城跡 | 不詳 |
| 86 | 三谷大谷1・2号横穴 | 横穴 | 不詳 |
| 87 | 三谷大谷遺跡 | 集落跡 | 平安～中世 |
| 88 | 三谷大谷A遺跡 | 製鉄跡 | 不詳 |
| 89 | 三谷大谷B遺跡 | 製鉄跡 | 不詳 |
| 90 | 木場遺跡(A地区) | 製鉄跡 | 奈良・平安 |
| 91 | 木場遺跡(B地区) | 製鉄跡 | 平安 |
| 92 | 木場遺跡(C地区) | 製鉄跡 | 不詳 |
| 93 | 木場遺跡(D地区) | 製鉄跡・横穴 | 不詳 |
| 94 | 木場遺跡(E地区) | 製鉄跡 | 不詳 |
| 95 | 木場遺跡(F地区) | 製鉄跡 | 不詳 |
| 96 | 木場遺跡(G地区) | 製鉄跡 | 不詳 |
| 97 | 長谷醤油屋の山遺跡 | 製鉄跡 | 不詳 |
| 98 | 大曲遺跡 | 製鉄跡 | 不詳 |



第3図 薬師遺跡と周辺の遺跡 (S=1/25,000)



第2章 経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

第1項 平成11年度の調査

この調査は、小松市が実施する道路改良工事（市道矢崎1号線：事業予定地面積2,000m²）に係る埋蔵文化財緊急発掘調査である。平成11年7月に小松市建設部道路課から、小松市教育委員会埋蔵文化財調査室に対し事業予定地の埋蔵文化財の取り扱いについて協議があった。埋蔵文化財調査室は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「薬師遺跡」内に位置していることから発掘調査が必要であると回答した。協議の結果、事業予定地の内、遺構・遺物の確認されなかつた谷部を除く区域を対象として発掘調査を実施することとなった。また、工事区域の幅が狭いなど発掘調査の実施の困難な区域については工事立合を行うこととなった。発掘調査は平成11年11月2日より開始し、11月25日に完了した。工事立合については工事の進捗状況に応じて隨時行った。発掘調査終了後、引き続き出土品の整理を実施した。

第2項 平成14年度の調査

この調査は、小松市が実施する道路改良工事（市道矢崎2号線：事業予定地面積870m²）及び下水道工事（事業予定地面積130m²）、に係る埋蔵文化財緊急発掘調査である。平成14年5月に小松市都市建設部道路課及び同上下水道部下水道建設課から、小松市教育委員会埋蔵文化財調査室に対し事業予定地の埋蔵文化財の取り扱いについての協議があった。埋蔵文化財調査室は、事業予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「薬師遺跡」内に位置していることや、平成11年度に実施した発掘調査の結果より事業予定地に埋蔵文化財が存在することは確実であることから、事業の実施にあたっては発掘調査が必要であると回答した。協議の結果、既存道路を拡幅する区域については工事区域の幅が狭く発掘調査の実施が困難であるため工事立合を行うこととし、その他の区域については発掘調査を実施することとなった。

また、平成14年7月には小松市上下水道部上水道工務課が実施する配水管布設工事（事業予定地面積約30m²）に伴い、事業予定地の埋蔵文化財の取り扱いについての協議があった。道路課及び下水道建設課の工事区域に隣接していることから事業予定地に埋蔵文化財が存在することは確実であり、事業の実施にあたっては発掘調査などの適切な保護措置が必要であることを伝えた、協議の結果、配水管布設工事では工事区域の幅が狭く発掘調査の実施が困難であるため工事立合を行うこととなった。

発掘調査は、道路課・下水道建設課の事業区域の内発掘調査の実施が可能な部分（約500m²）を対象として実施した。平成14年6月10日より開始し、8月7日に完了した。工事立合については工事の進捗状況に応じて隨時実施した。発掘調査終了後、出土品の整理を行い、平成11年度の発掘調査の成果も合わせて報告書を刊行することとなった。

第2節 調査の経過

第1項 現地調査

平成11年度の調査

- ・11月2日 遺構検出・遺構掘り下げ作業開始。
完掘した区域より順に遺構平面図・センター図の作成、写真撮影を行った。
- ・11月5日 13～15Gr、完掘。全景写真の撮影。
- ・11月6・7日 01～07Gr、重機により表土除去。
- ・11月11日 S I 0 2 断面図の作成、完掘。
- ・11月14日 S I 0 3 完掘、写真撮影、遺構平面図の作成。
- ・11月19日 S I 0 2 遺構平面図・断面図の作成。
- ・11月21日 S I 0 4 遺構平面図・断面図の作成。
- ・11月22日 S I 0 4 完掘、写真撮影。S B 0 1・0 2 エレベーション図の作成。
- ・11月24日 S B 0 3 エレベーション図の作成。
- ・11月25日 S I 0 2・0 4 床下完掘。S B 0 1～0 3 写真撮影。調査区の全景写真の撮影。
器材の撤収。現地調査完了。

平成14年度の調査

道具小屋設置場所及び排土置き場の確保、周辺住民の迂回路を確保するため、調査区を3区に分け北側から順に調査を行った。調査区の北側約1/4については、過去に削平を受けており遺構は確認できなかった。

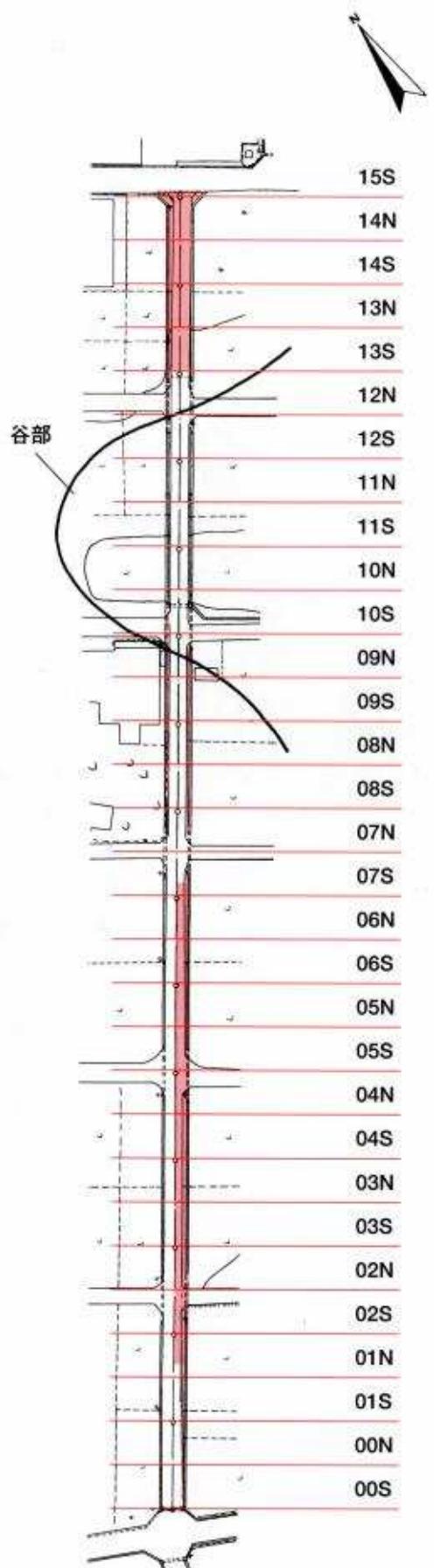
- ・6月10日 重機により第1区(Y11～20Gr)の表土除去。
- ・6月11日 グリッド杭の設定。
- ・6月12日 遺構検出・遺構掘り下げ作業開始。
- ・6月26日 第1区完掘。第1区の全景写真の撮影。
- ・6月26日～7月9日 遺構平面図・センター図・断面図の作成。
- ・7月11日 道具小屋移設。
- ・7月12・13日 第2区(Y05～11Gr)の表土除去。グリッド杭の設定。
- ・7月15日 遺構検出・遺構掘り下げ作業開始。
- ・7月23日 S B 0 4 完掘、エレベーション図作成、写真撮影。S K 0 1 完掘、写真撮影。
第2区完掘。第2区の全景写真の撮影。
- ・7月24日～8月1日 遺構平面図・センター図の作成。
- ・8月1日 第3区(Y01～04Gr)の表土除去。グリッド杭の設定。
遺構検出・遺構掘り下げ作業開始。
- ・8月5日 S K 0 2 完掘、断面図の作成、写真撮影。第3区完掘。
- ・8月6日 第3区の全景写真の撮影。器材の撤収。
- ・8月6・7日 遺構平面図・センター図・断面図の作成。現地調査完了。

第2項 出土品整理

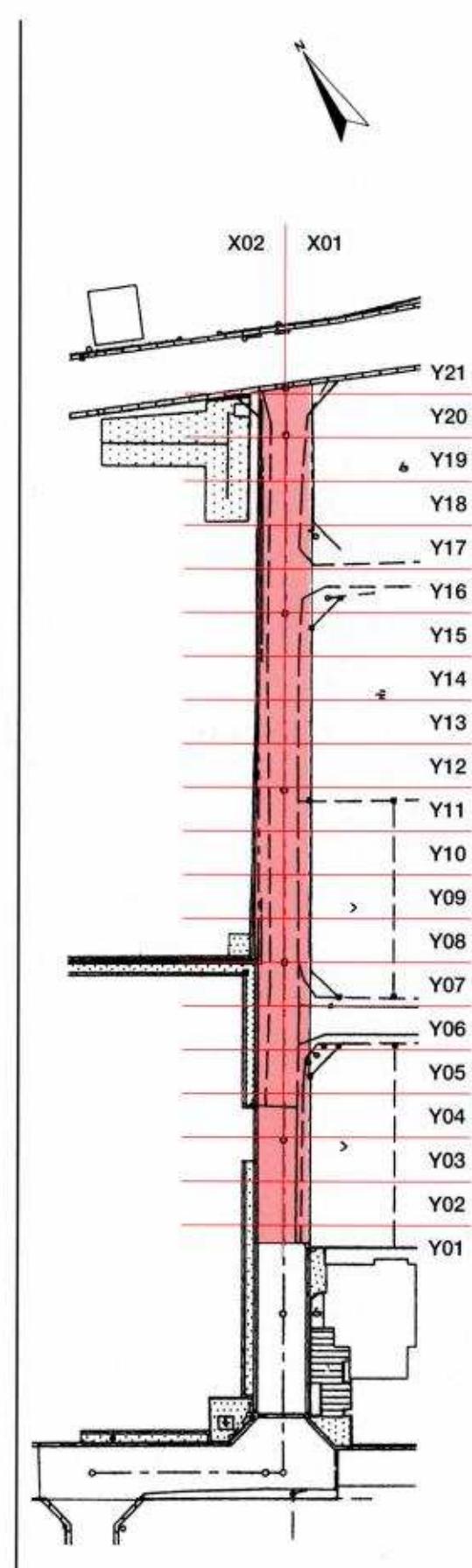
- ・平成11年12月1日～22日 平成11年度調査区出土遺物の洗浄・注記・分類・接合。
- ・平成14年9月2日～30日 平成14年度調査区出土遺物の洗浄・注記・分類・接合。
遺物実測図・トレース、遺構図トレース。



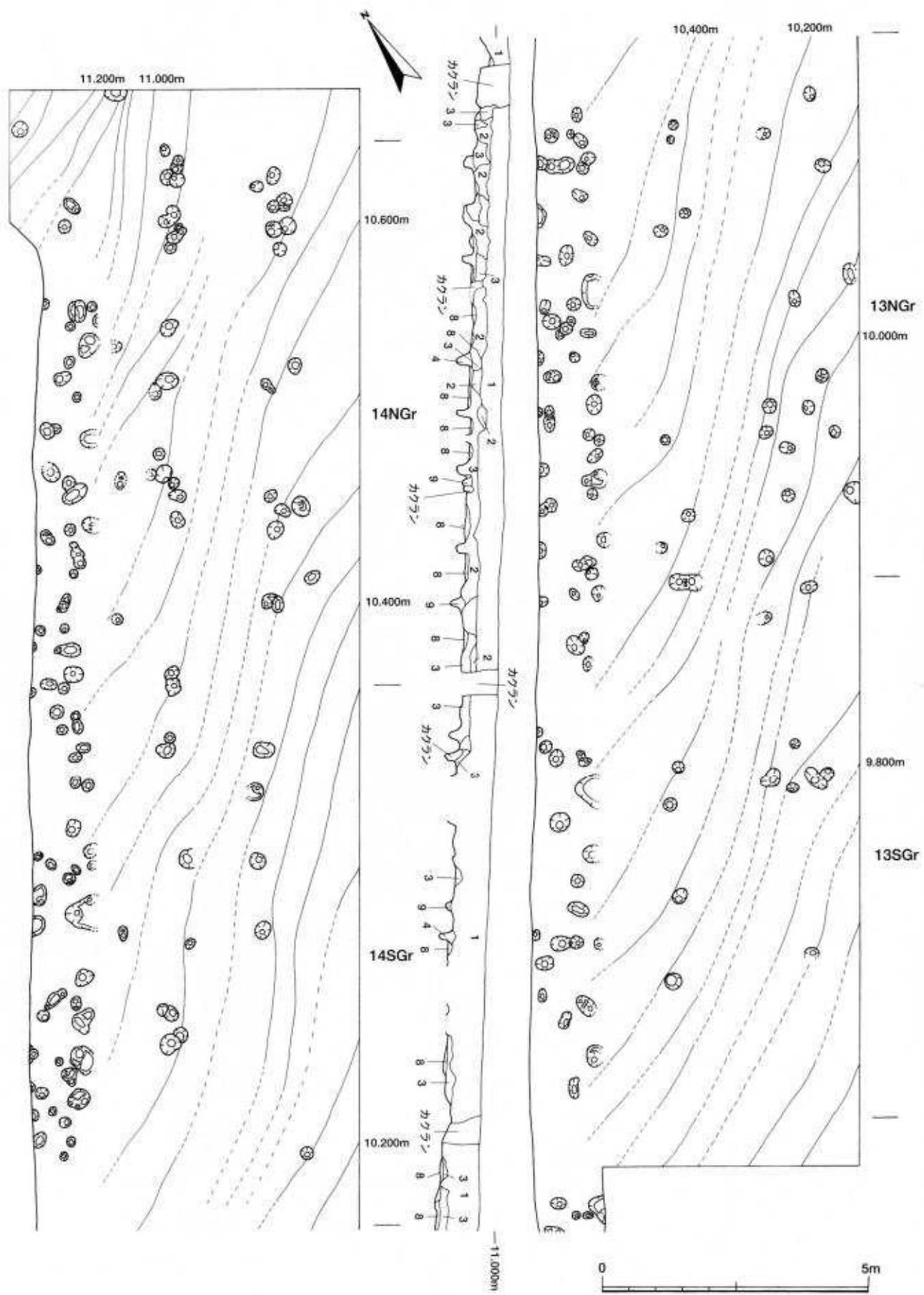
第4図 調査区の位置 (S=1/2,500)



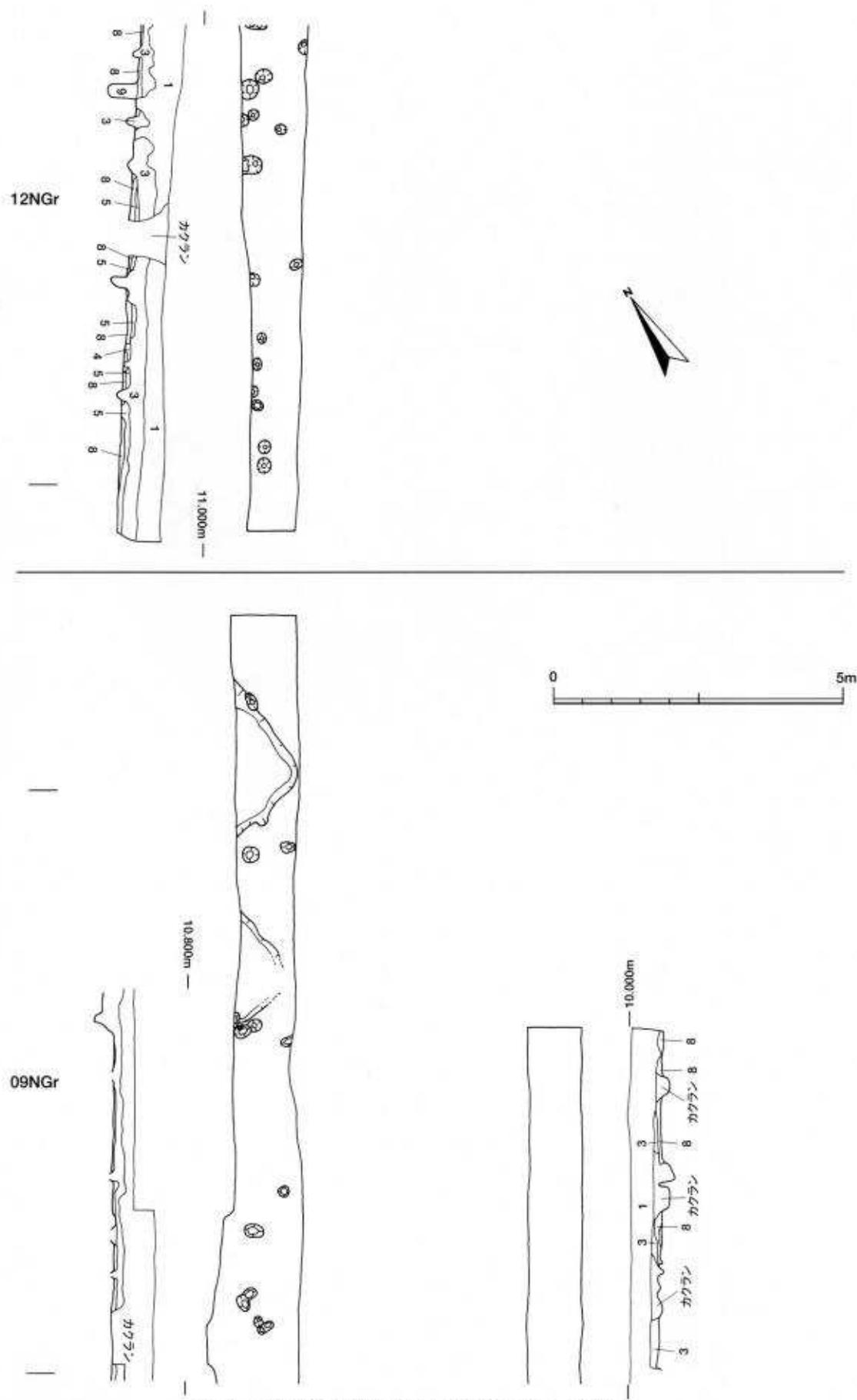
第5図 平成11年度調査区グリッド配置図
(S = 1/1,500)



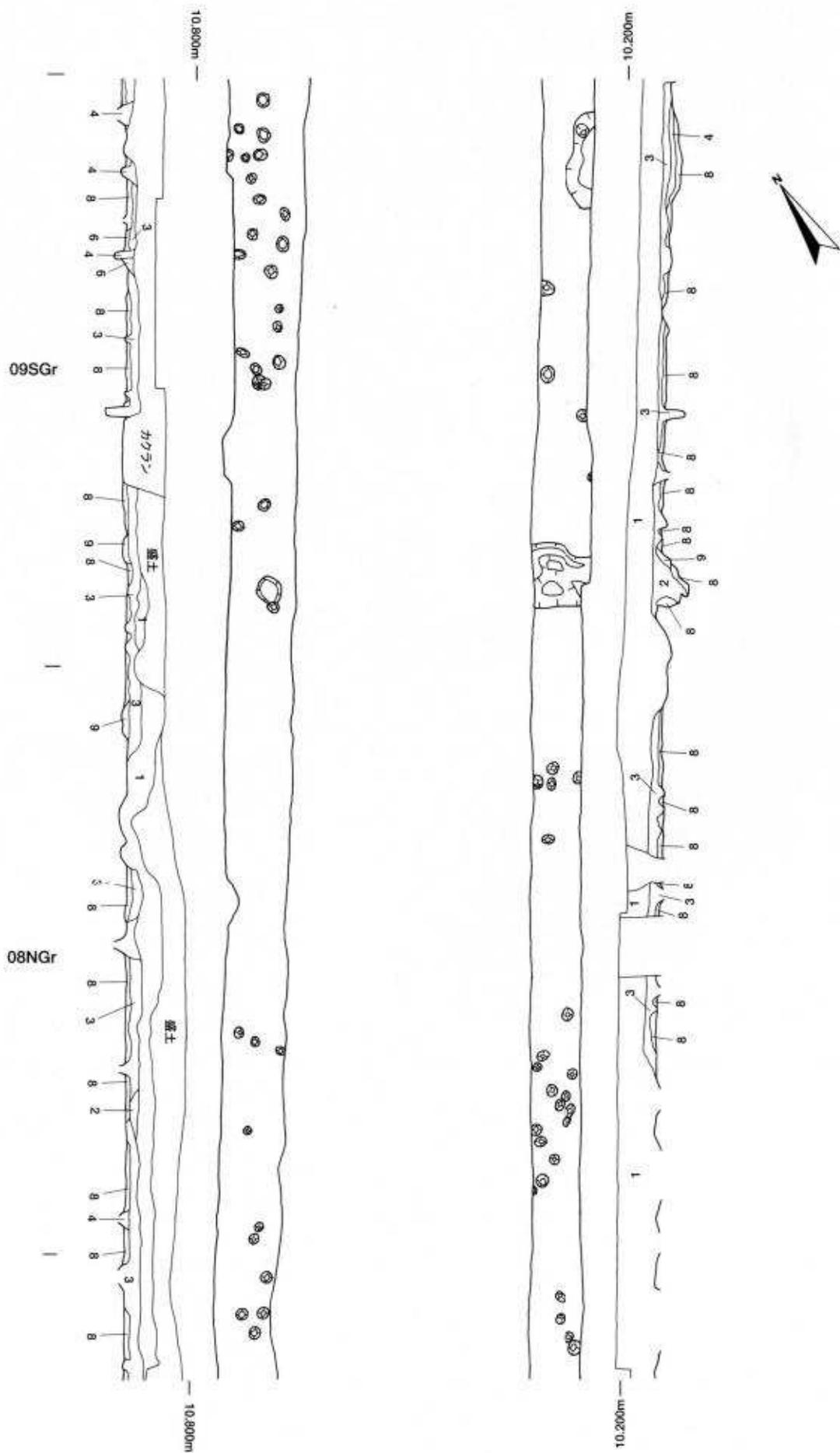
第6図 平成14年度調査区グリッド配置図
(S = 1/750)



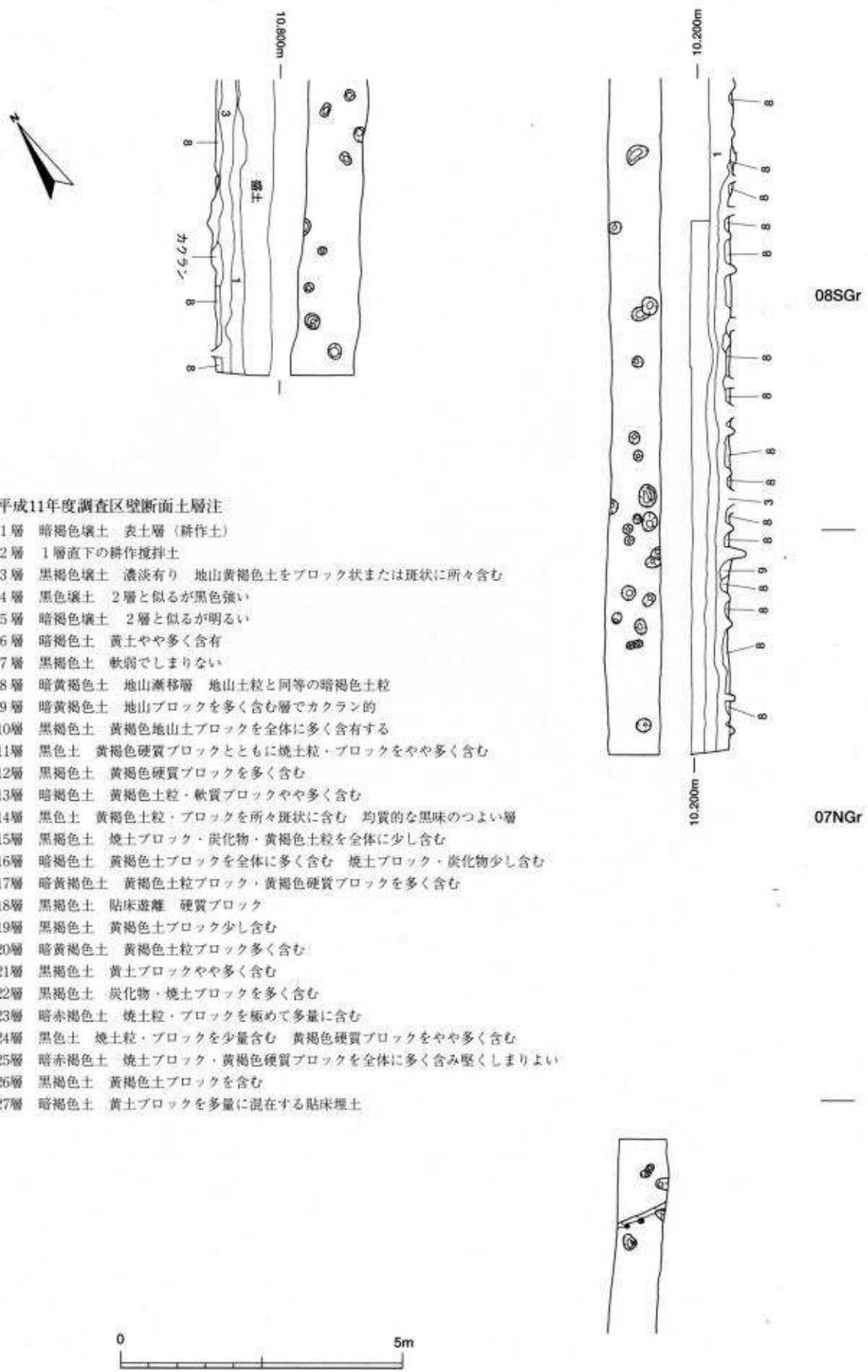
第7図 平成11年度調査区遺構平面図1 (S=1/100)



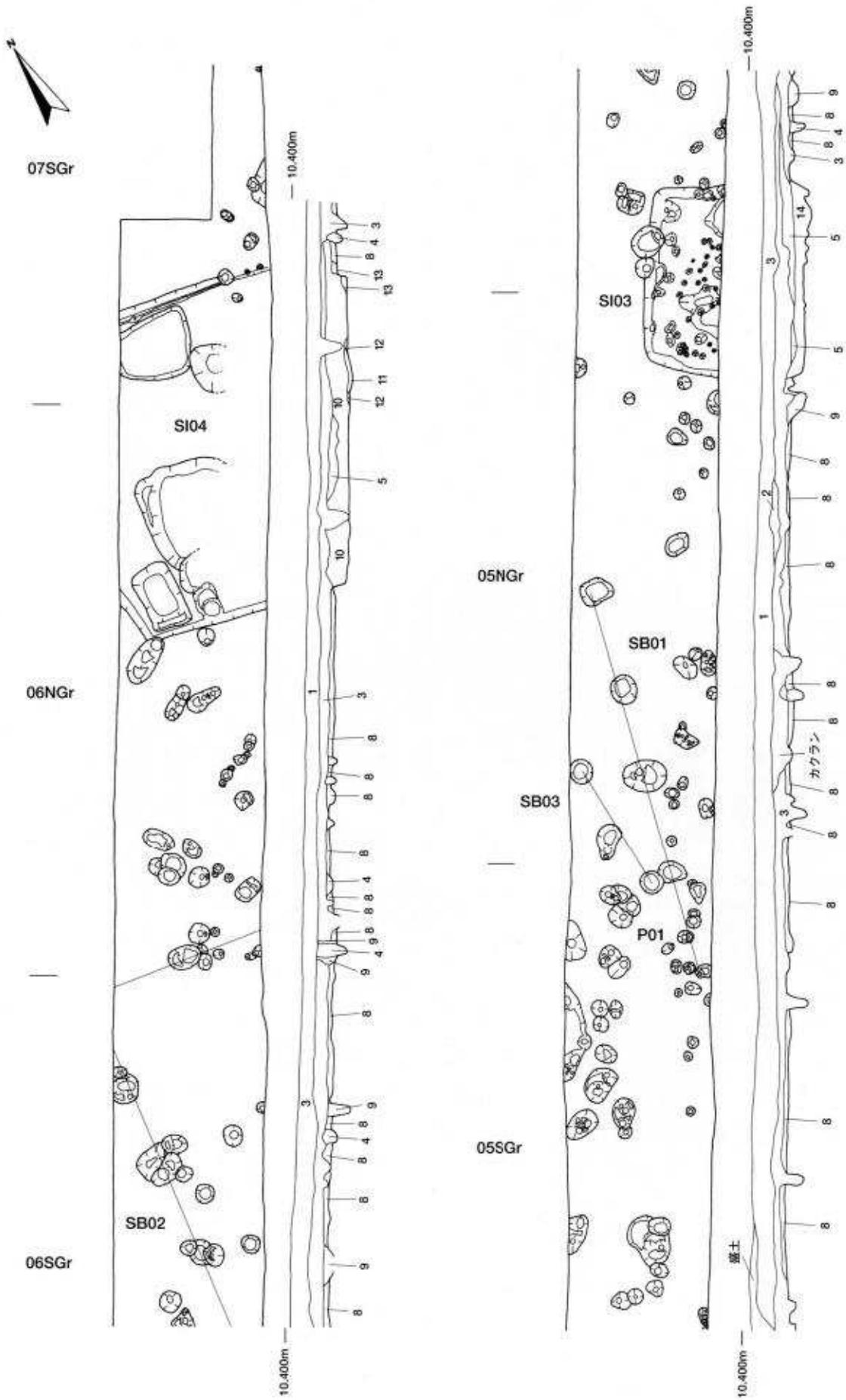
第8図 平成11年度調査区遺構平面図2 (S=1/100)



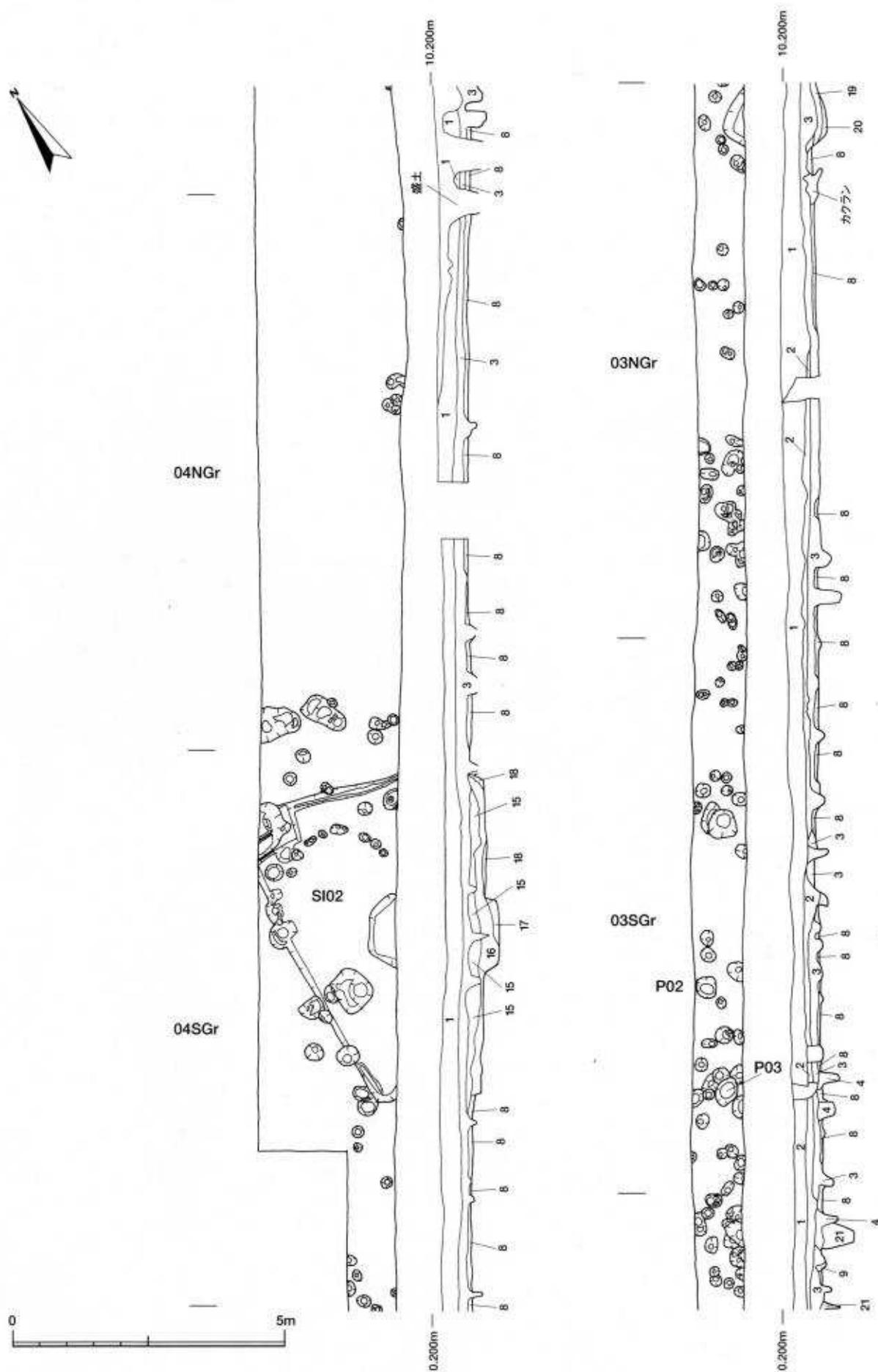
第9図 平成11年度調査区遺構平面図3 (S=1/100)



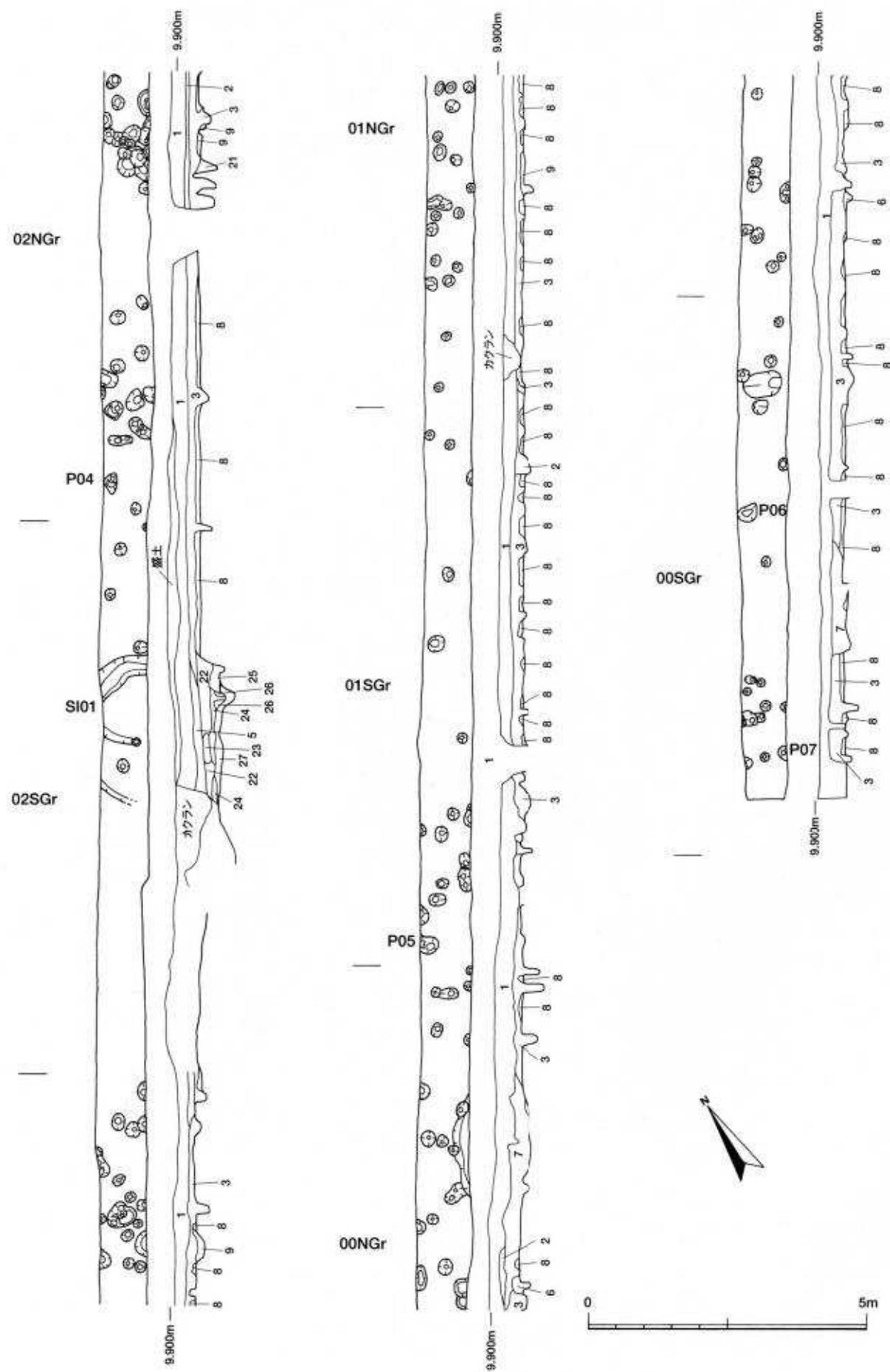
第10図 平成11年度調査区遺構平面図4 (S=1/100)



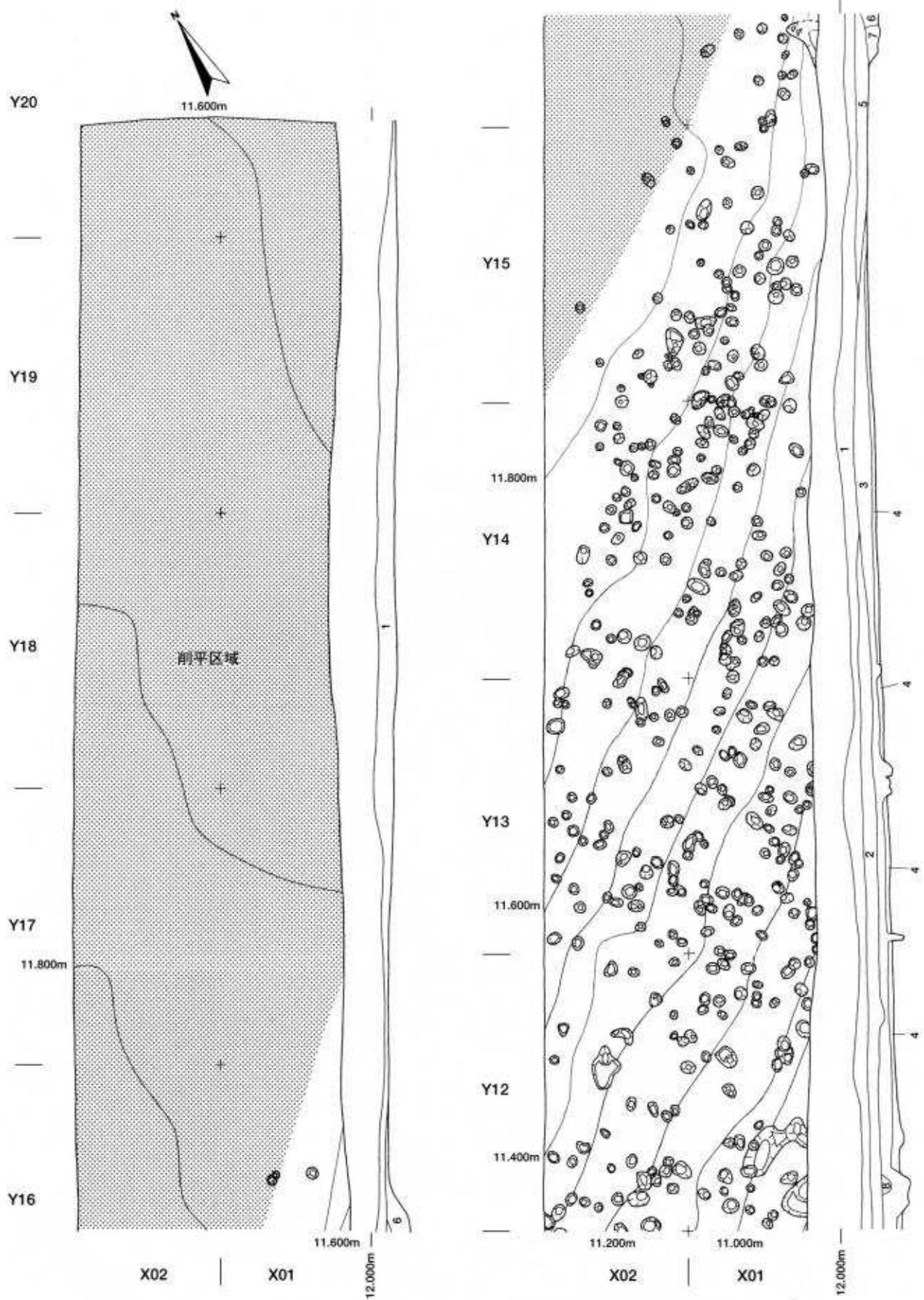
第11図 平成11年度調査区遺構平面図 5 (S = 1/100)



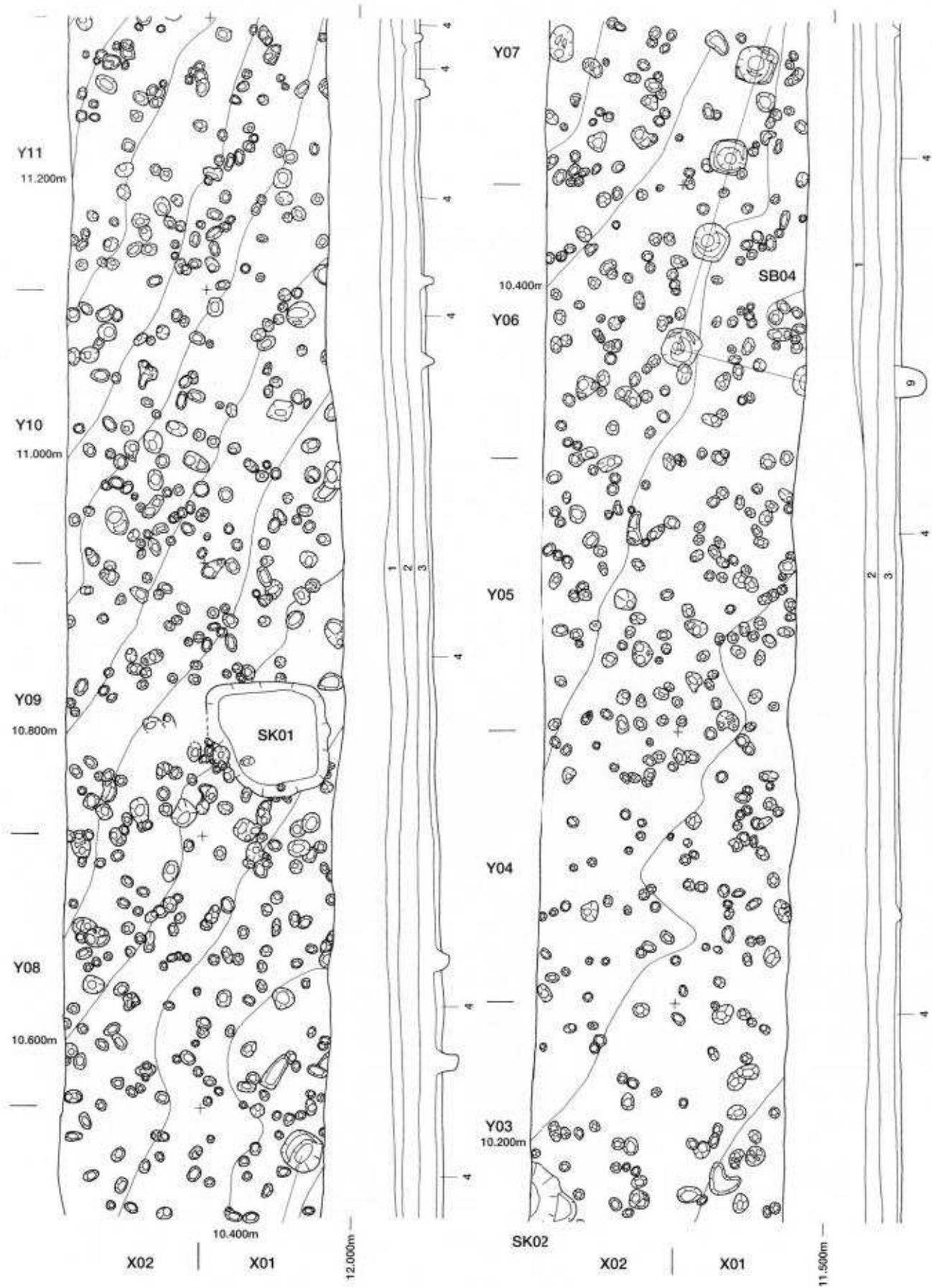
第12図 平成11年度調査区遺構平面図6 (S=1/100)



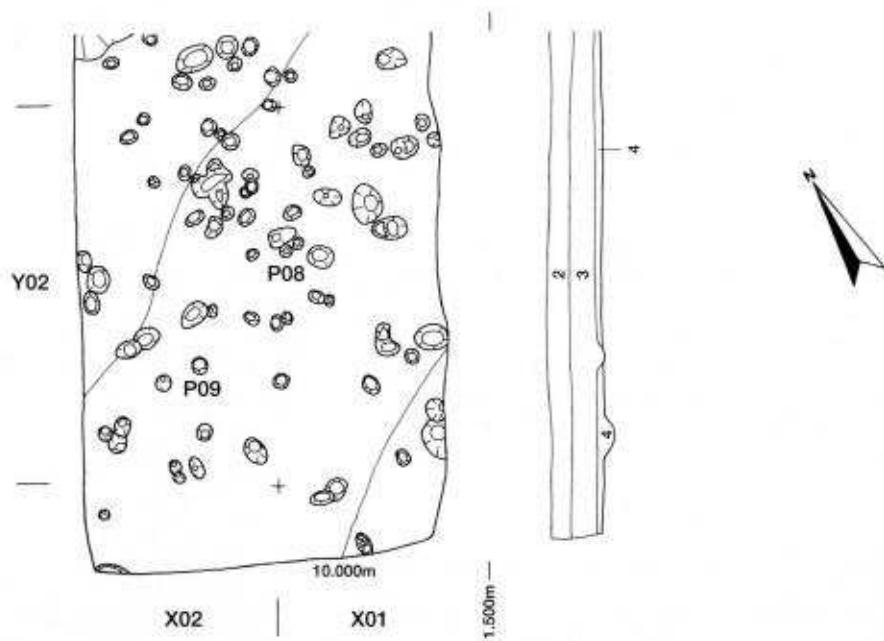
第13図 平成11年度調査区遺構平面図7 (S=1/100)



第14図 平成14年度調査区遺構平面図1 (S=1/100)



第15図 平成14年度調査区遺構平面図2 (S = 1/100)



平成14年度調査区東側壁断面土層注

- 1層 表土
- 2層 黒褐色シルト質壤土 炭化物わずかに含む 旧耕作土
- 3層 黒色シルト質壤土 炭化物わずかに含む
- 4層 3層と褐色シルト質壤土（地山）の混層
- 5層 2層に地山ブロック少し混じる カクラン
- 6層 2層・3層と地山の混層 カクラン
- 7層 3層に地山ブロック少し混じる
- 8層 2層と3層の混層
- 9層 黒色シルト質壤土に地山ブロックわずかに混じる
炭化物わずかに含む



第16図 平成14年度調査区遺構平面図3 (S = 1/100)

第3章 遺構と遺物

第1節 平成11年度の調査

S I 0 1 (第17図)

0 2 S G r で検出、調査区外へ続いており正確な規模は不明。径約270cmと予想される円形の竪穴状遺構。深さは約40cm、柱穴は確認されていない。北壁際には溝が巡る。

出土遺物は1~13を図化した。3~8は須恵器坏蓋、3~5は返しの付くタイプ。9・10は土師器甕、接合しないが同一個体の可能性もある。12は土製移動式甕の底部破片。13は鉄製品、鋸の付着が著しく詳細は不明だが刀子の柄の部分と思われる。出土遺物から判断すると、S I 0 1は7世紀後半の遺構と考えられる。

S I 0 2 (第17図)

0 4 S G r で検出、調査区外へ続いており正確な規模は不明だが、一辺約680cmと予想される方形の住居跡。床面までの深さは20cm程度。主柱穴は西壁沿いに2本確認できる。径40~50cmの円形、深さは床面から約50cm、柱間は約250cm。北壁際と南西壁際の一部には壁溝が巡る。床面北西寄りに深さ20cm程度の床下土坑（K 1）が存在する。この床下土坑の覆土は、黒褐色土に硬質黄褐色土ブロックを含む。北西隅の壁沿いには径約80cm、深さ約20cmの土坑（K 2）が、西壁沿い2本の柱穴の間には径約70cmの平面形が略方形、深さ約20cmの土坑（K 3）が見られる。K 3については床面土坑と判断したが、覆土からみると床下土坑の可能性もある。

出土遺物は14~18を図化した。15は須恵器蓋、径24.0cmであり盤Bの蓋と思われる。16は須恵器短頸壺の蓋。18は土錘。遺物の数は少なく、多くが遺構上面からの出土であるので遺構の時期の特定は難しい。

S I 0 3 (第18図)

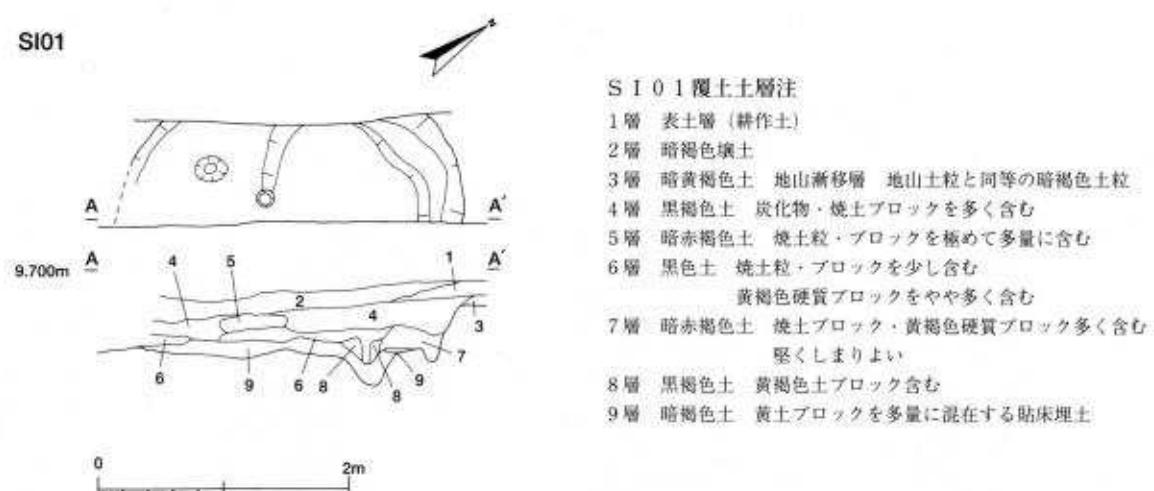
0 6 N・0 7 S G r で検出、東側半分が調査区外へ続いている。正確な規模は不明だが、一辺約300cmと予想される方形の住居跡。床面までの深さは約25cm。西壁北寄りに径約80cmの柱穴（P 1）が見られる。これに対応する柱穴が確認されていないため不確定であるが、S I 0 3に伴う柱穴とも考えられる。

出土遺物は19~26を図化した。20は須恵器坏A、底部に坏Aが溶着する。25は土師器甕の底部。26は土錘。遺物の大部分は遺構の上面から出土しており、住居廃絶後の堆積に伴う遺物と考えられる。明確にS I 0 3に伴うと思われる遺物がないことから、時期の特定は難しい。

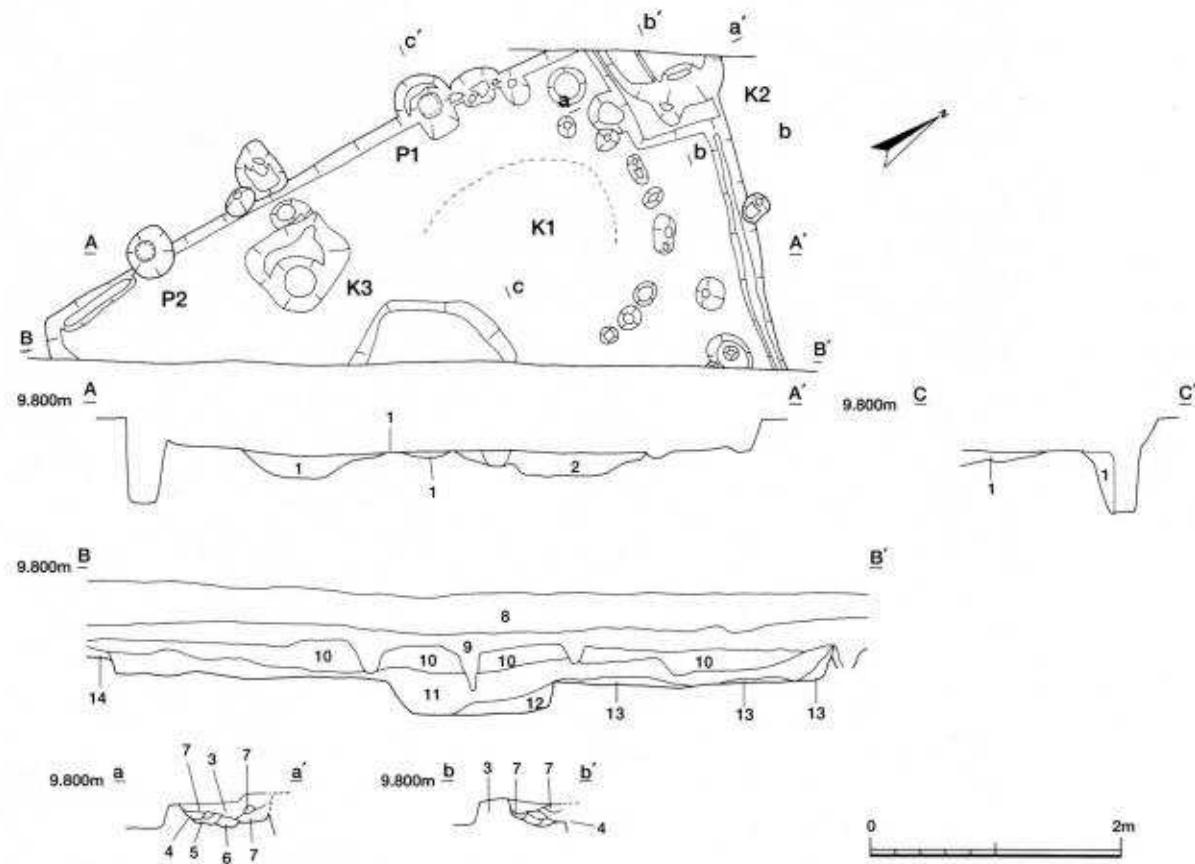
S I 0 4 (第18図)

0 7 N・0 8 S G r で検出、調査区外へ続いており正確な規模は不明だが、長軸で約570cmを測る方形の住居跡。床面までの深さは20~30cm程度。主柱穴は2本確認できる。径約70cmの略円形、深さ約70cmのP 1と、南壁際に位置し約60cm×40cmの略方形、深さ約50cmのP 2である。柱間は縦が約370cm、横が約200cmと予想される。北壁際には壁溝が巡る。南西隅壁沿いに約120cm×70cm、深さ約20cmの方形の土坑（K 1）が、北壁沿いには約140cm×110cmの略方形の土坑（K 2）が見られる。K 2には焼土が分布しており、付近にカマド前庭部が存在すると考えられる。また、床面中央南寄りには深さ20cm程度の床下土坑（K 3・4）が存在する。

SI01

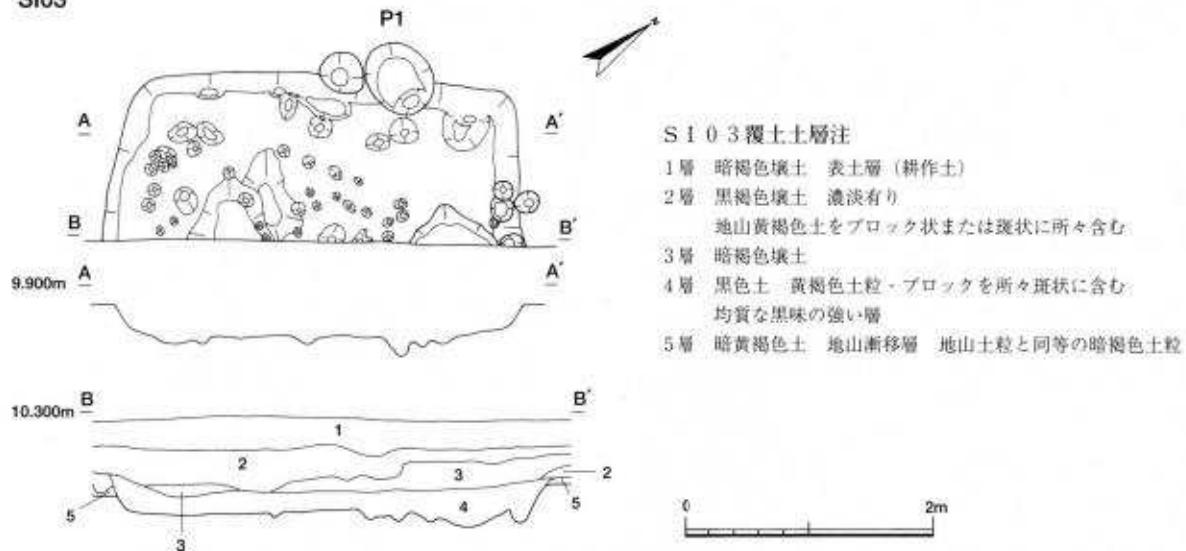


SI02

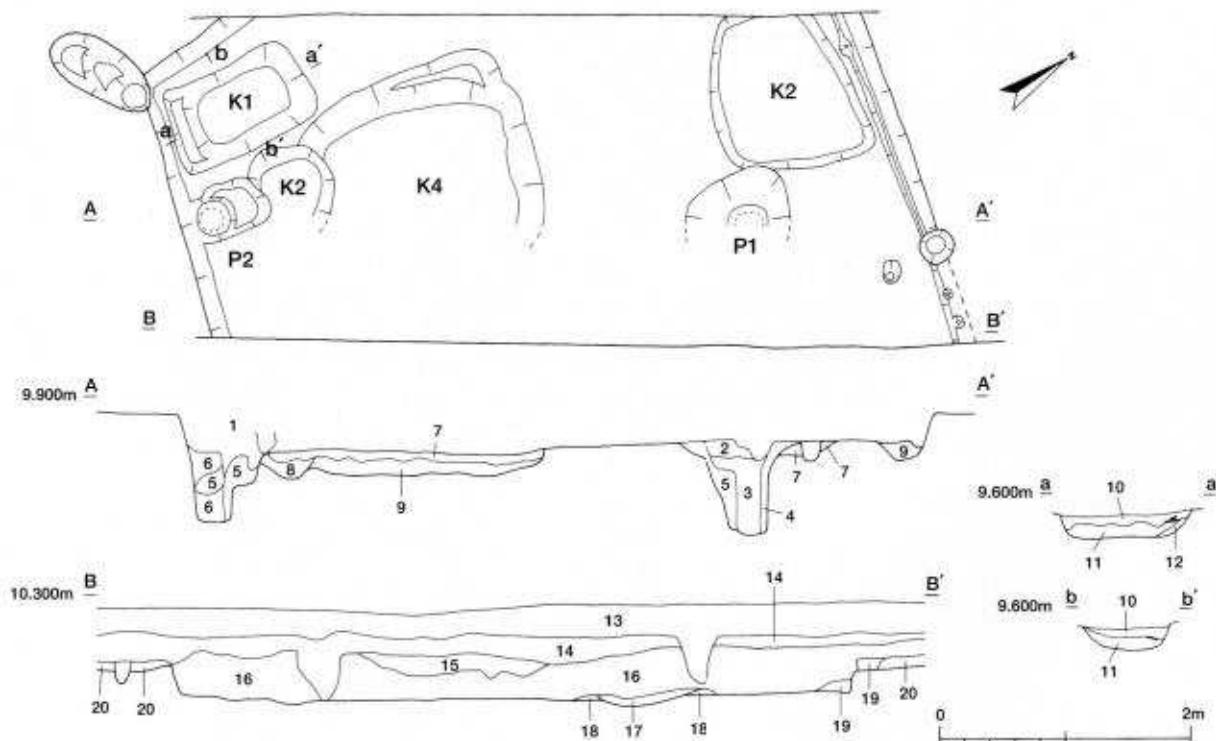


第17図 遺構実測図1 (S=1/60)

SI03



SI04



第18図 遺構実測図2 (S=1/60)

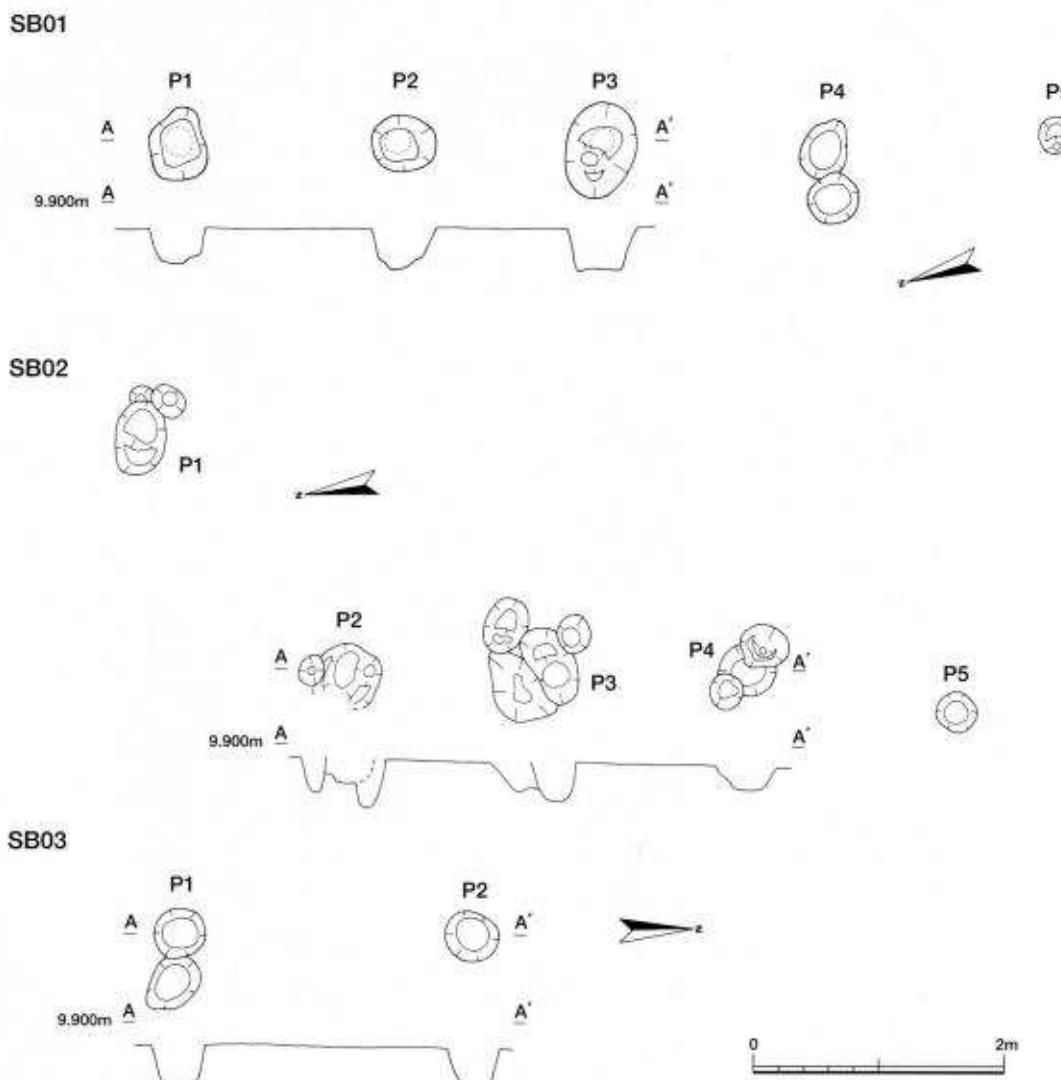
出土遺物は27~53を図化した。27~32は須恵器壺A、39は底部に須恵器蓋（返しの付くタイプ）が溶着する。33~39は須恵器壺B。40~42は須恵器蓋、40は返しの付くタイプ。43は須恵器長頸瓶の頸部。44は赤彩塊A。50は土師器長胴甕、口縁部と体部の破片が出土しているが接合しない。51・52は土師器甕。出土遺物から判断すると、S I 0 4は7世紀後半から8世紀前半頃の遺構と考えられる。

SB01 (第19図)

06S・06NGrで検出、調査区外へ続いており正確な規模は不明。桁行4間以上(690cm以上)で、梁行については確認できなかった。柱間は桁行で約170cm。主軸は南北方向から東へ約17度ずれる。柱穴は径75cm~30cm、略方形・略円形・不整形と平面形はさまざま、深さは約30cm。P4はSB03の柱穴に切られる。P5については他の柱穴に比べ径も小さく、SB01の柱穴とするには疑問が残る。遺物は出土しておらず時期等は不明。

SB02 (第19図)

07S・07NGrで検出、調査区外へ続いており正確な規模は不明。梁行1間以上×桁行3間以上。柱間は桁行で約160cm。主軸は南北方向から東へ約11度ずれる。柱穴は径65cm~30cm、略円形・不整形と平面形はさまざま、深さは約20cm。遺物は出土しておらず時期等は不明。



第19図 遺構実測図3 (S=1/60)

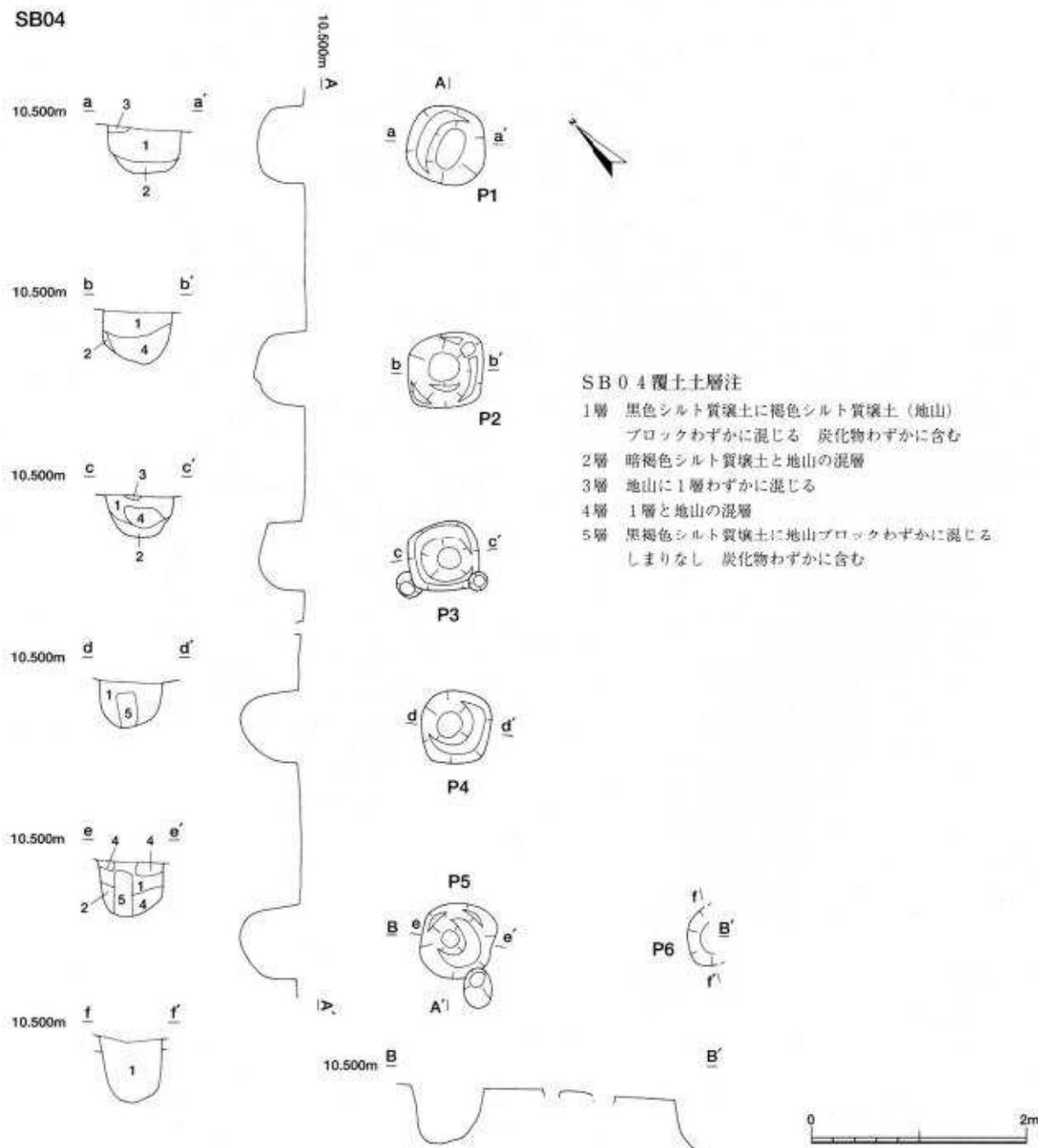
SB03 (第19図)

06S・06NGrで検出、柱穴2つのみが確認される。大部分は調査区外へ続いており、主軸方向や規模については不明。柱間は約230cm。柱穴は径約40cmの略円形で、深さ約30cm。遺物は出土しておらず時期等は不明。

その他の遺物

54~63はピットより出土した遺物。55は赤彩壺B、P02より出土。8世紀前半のものと思われる。59は外赤彩内黒塗A、P05より出土、9世紀代のもの。64~71は包含層出土遺物。71は石錘、木場湯での漁撈活動が伺われる。72~78は調査区周辺で採取された遺物。76は縄文時代中期後葉の土器、古府式期と思われる。

SB04



第20図 遺構実測図4 (S=1/60)

第2節 平成14年度の調査

S B 0 4 (第20図)

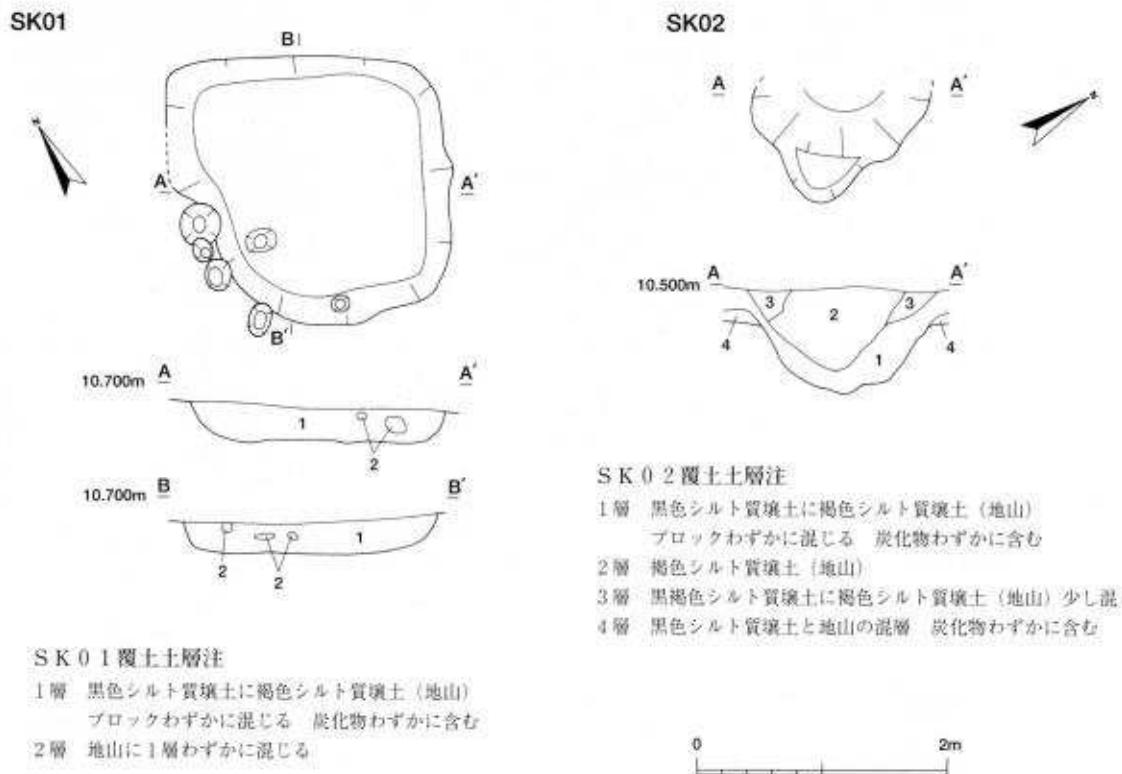
X01・02-Y06・07G rで検出、調査区外へ続いており正確な規模は不明。確認できる範囲では、梁行1間以上(240cm以上)×桁行4間以上(750cm以上)。主軸は南北方向から東へ約48度ずれる。柱間は梁行で約190cm、桁行で240cm。柱穴は径約60cmの略方形、深さ40~50cm。P 4・5で柱痕が確認できる。柱痕部分の覆土は黒褐色シルト質壤土でしまりがない。堀り方埋土は黒色シルト質壤土に褐色シルト質壤土(地山)が混じる。P 3・5・6より土師器片が数点出土しているが、細片であり器種・時期等は不明。

S K 0 1 (第21図)

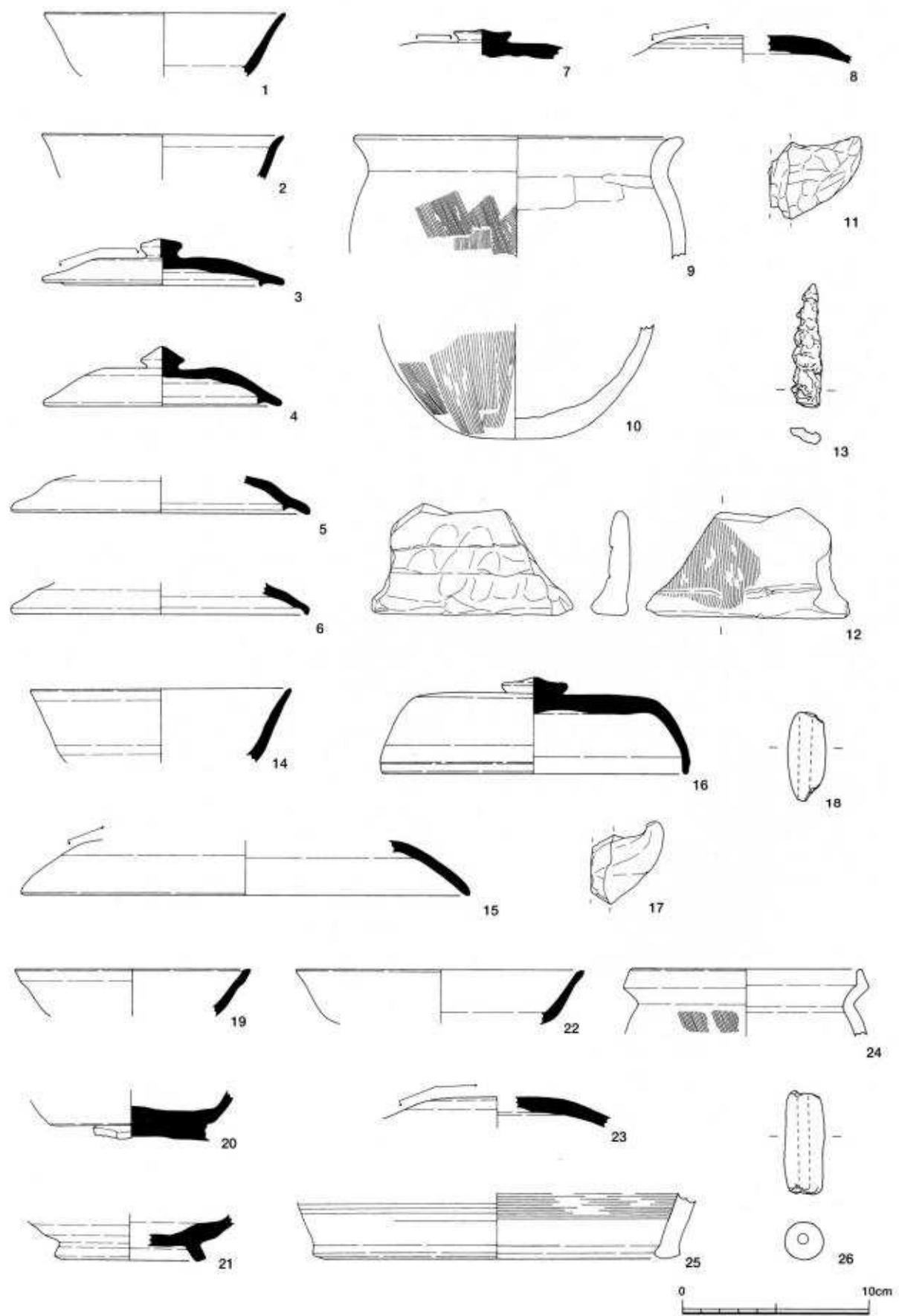
X01-Y09G rで検出された、径約220cm×215cm、深さ約25cmの略方形の土坑。西側が大きくゆがむ。壁面は比較的まっすぐに立ち上がり、底面に広い平坦面をもつ。覆土は、黒色シルト質壤土に径10cm程度の地山ブロックを含む。遺物は、須恵器坏A(79)と土師器片数点が出士している。時期は8世紀前半と想定される。

S K 0 2 (第21図)

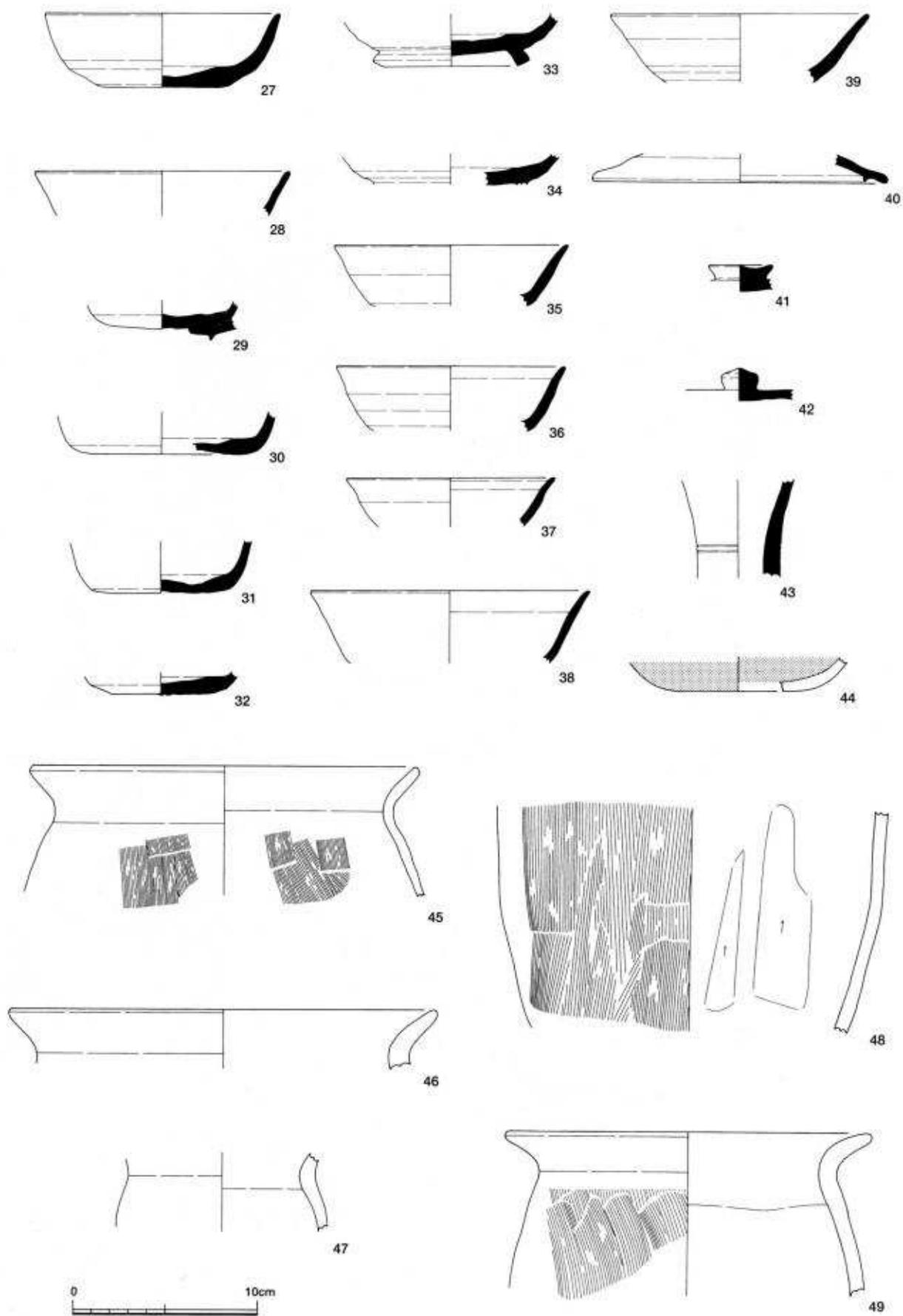
X02-Y03G rで検出、調査区外へ続いており正確な規模は不明。確認できる範囲では、径約130cm、深さ約60cm。平面形はやや不整形で、底部は円形のすり鉢状になっている。覆土は下層に黒色シルト質壤土、上層に褐色シルト質壤土(地山)となっており、後に地山土によって埋められたと考えられる。遺物は出土しておらず時期等は不明。



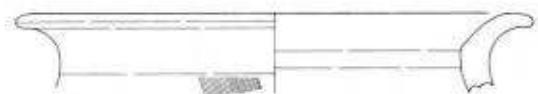
第21図 遺構実測図5 (S=1/60)



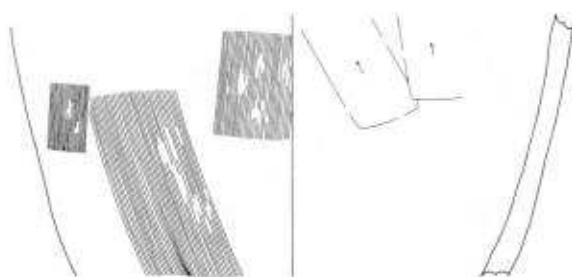
第22図 遺物実測図1 (S=1/3)



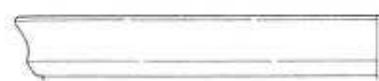
第23図 遺物実測図 2 (S = 1/3)



50



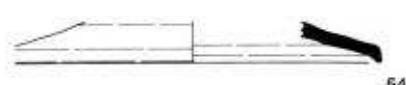
51



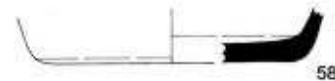
52



53



54



55

56

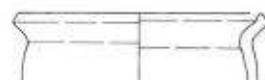
62



57



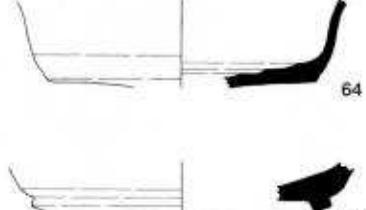
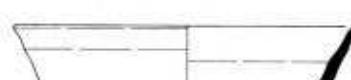
63



58

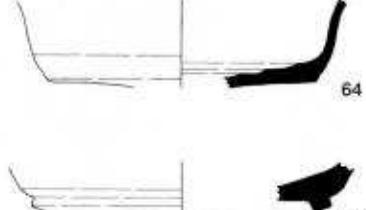
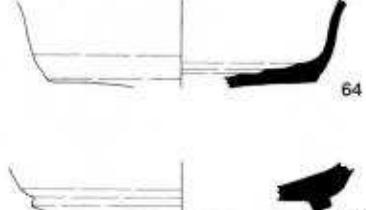
60

64

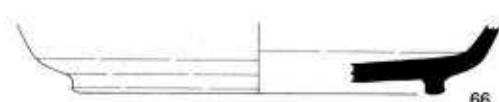


61

65



66



66



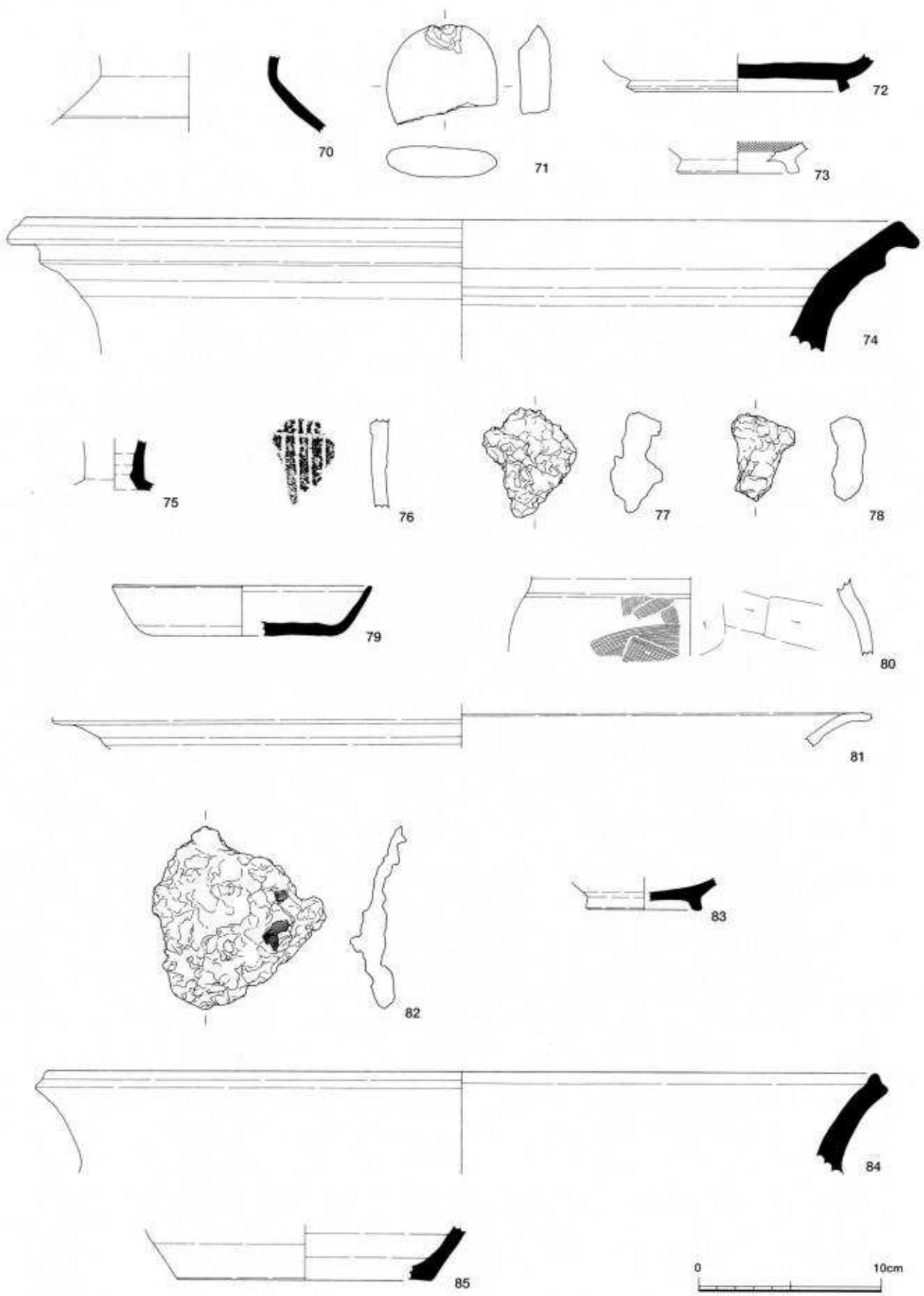
67



68



第24図 遺物実測図3 (S=1/3)



第25図 遺物実測図4 (S=1/3)

表2 遺物観察表

| No | 遺物名称 | 寸法(cm・g) | 胎土 | 焼成・色調 | 調整(外/内) | 残存率 | 出土地点 | 備考 |
|----|----------|--------------------------------------|----|-------------|-------------|-----------|---------|-------------|
| 1 | 須恵器 坯B | 口径 13.0 | 砂少 | 良・青灰 | | 口縁部 | S I 0 1 | |
| 2 | 須恵器 坯B | 口径 13.0 | | 並・灰 | | 口縁部 | S I 0 1 | |
| 3 | 須恵器 蓋 | 端部径 12.9 高さ 2.5 返し径 10.6 つまみ径 2.5 | | 並・灰白 | ヘラ削り /ナデ | 完形 | S I 0 1 | |
| 4 | 須恵器 蓋 | 端部径 12.8 高さ 3.2 返し径 10.4 つまみ径 2.3 | 砂多 | 並・灰黄 | | 1/2 | S I 0 1 | |
| 5 | 須恵器 蓋 | 端部径 16.0 返し径 13.2 | | 並・灰黄 | | 端部 | S I 0 1 | |
| 6 | 須恵器 蓋 | 端部径 16.0 | | 並・灰 | | 端部 | S I 0 1 | |
| 7 | 須恵器 蓋破片 | つまみ絆 3.1 | | 並・灰 | ヘラ削り/- | 天井部 上面 | S I 0 1 | |
| 8 | 須恵器 蓋破片 | - | | 並・灰白 | ヘラ削り/- | 天井部 | S I 0 1 | |
| 9 | 土師器 蓋 | 口径 17.8 顎径 16.1 胴径 18.0 | | にぶい黄橙 | ハケ /ヘラ削り | 口縁部 | S I 0 1 | |
| 10 | 土師器 蓋 | - | 砂多 | 橙 | ハケ/- | 底部 | S I 0 1 | |
| 11 | 土師器 蓋・瓶 | - | | にぶい黄橙 | | 把手 | S I 0 1 | |
| 12 | 土製移動式籠 | 底径約 35.0 | | にぶい橙 | ハケ/- | 底部 | S I 0 1 | |
| 13 | 鉄製品 | 残存長 6.6 幅 1.5 厚さ 0.6 重さ 8.3 | | | | - | S I 0 1 | |
| 14 | 須恵器 坯B | 口径 14.0 | | 並・暗灰 | | 口縁部 | S I 0 2 | |
| 15 | 須恵器 蓋 | 端部径 24.0 | | 並・黄灰 | ヘラ削り/- | 端部 | S I 0 2 | |
| 16 | 須恵器 短頸壺蓋 | 端部径 16.7 高さ 5.2 つまみ径 3.1 | | 並・灰白 | -/ナデ | 完形 | S I 0 2 | |
| 17 | 土師器 蓋・瓶 | - | | にぶい黄橙 | | 把手 | S I 0 2 | |
| 18 | 土錘 | 長さ 4.8 幅 2.1 孔径 0.6 重さ 13.7 | | 浅黄橙 | | 略完形 | S I 0 2 | |
| 19 | 須恵器 坯A | 口径 12.6 | | 良・灰 | | 口縁部 | S I 0 3 | |
| 20 | 須恵器 坯A | 底径 8.8 | | 良・暗灰 | | 1/2 | S I 0 3 | 底部に坏 A溶着 |
| 21 | 須恵器 坯B | 台径 8.2 台高 0.9 | | 並・灰黄 | ヘラ切り /ナデ | 1/4 | S I 0 3 | |
| 22 | 須恵器 坯B | 口径 15.4 | 砂少 | 良・暗青灰 | | 口縁部 | S I 0 3 | |
| 23 | 須恵器 蓋破片 | - | | やや不良 浅黄橙 | ヘラ削り/- | 1/6 | S I 0 3 | |
| 24 | 土師器 蓋 | 口径 12.5 顎径 11.6 | | 灰黄褐 | ハケ/- | 口縁部 | S I 0 3 | |
| 25 | 土師器 瓶 | 底径 19.7 | | にぶい黄橙 | カキ目 /カキ目 | 底部 | S I 0 3 | |
| 26 | 土錘 | 長さ 5.5 幅 2.1 孔径 0.6 重さ 20.7 | | 浅黄橙 | | 略完形 | S I 0 3 | |
| 27 | 須恵器 坯A | 口径 12.7 高さ 4.0 底径 7.2 | 砂多 | 並・灰白 | ヘラ切り/- | 3/5 | S I 0 4 | |
| 28 | 須恵器 坯A | 口径 13.8 | | 並・灰白 | | 口縁部 | S I 0 4 | |
| 29 | 須恵器 坯A | 底径 6.8 | | 良・灰白 | ヘラ切り/- | 1/2 | S I 0 4 | 底部に蓋 溶着 |
| 30 | 須恵器 坯A | 底径 9.0 | | 良・灰 | ヘラ切り/- | 1/6 | S I 0 4 | |
| 31 | 須恵器 坯A | 底径 7.4 | | 良・灰 | ヘラ切り/- | 1/4 | S I 0 4 | 内面ヘラ 書き |
| 32 | 須恵器 坯A | 底部 6.8 | | 良・灰 | ヘラ切り /ナデ | 1/4 | S I 0 4 | |

| No | 遺物名称 | 寸法(cm・g) | 胎土 | 焼成・色調 | 調整(外/内) | 残存率 | 出土地点 | 備考 |
|----|-------------|--------------------------------|----|---------------|--------------|-----------|-----------------|----|
| 33 | 須恵器 坯B | 台径 8.4 台高 0.9 | | 並・黄灰 | ヘラ切り／ナデ | 1/3 | S I 0 4 下層 | |
| 34 | 須恵器 坯B | 台径 8.3 | | 並・灰 | ヘラ切り／ナデ | 底部 | S I 0 4 上中層 | |
| 35 | 須恵器 坯B | 口径 12.6 | 砂多 | 並・灰黃 | | 口縁部 | S I 0 4 上中層 | |
| 36 | 須恵器 坯B | 口径 12.4 | 砂多 | 並・灰黃 | | 口縁部 | S I 0 4 上中層 | |
| 37 | 須恵器 坯B | 口径 11.2 | 砂多 | 並・灰黃 | | 口縁部 | S I 0 4 上中層 | |
| 38 | 須恵器 坯B | 口径 15.0 | 砂少 | 並・灰白 | | 口縁部 | S I 0 4 上中層 | |
| 39 | 須恵器 坯B | 口径 13.9 | | やや不良 灰黃 | ヘラ切り／— | 口縁部 | S I 0 4 下層 | |
| 40 | 須恵器 蓋 | 端部径 15.9 返し径 13.6 | | 並・灰白 | | 端部 | S I 0 4 | |
| 41 | 須恵器 蓋破片 | つまみ径 3.5 | 砂少 | 不良 にぶい黄橙 | —／ナデ | 天井部 | S I 0 4 | |
| 42 | 須恵器 蓋破片 | つまみ径 2.0 | 砂多 | 並・灰 | —／ナデ | 天井部 | S I 0 4 上面 | |
| 43 | 須恵器 長頸瓶 | 頸径 4.4 | | 良・暗灰 | | 頸部 | S I 0 4 下層 | |
| 44 | 土師器 赤彩塊A | 底径 7.0 | | 橙 | | 底部 | S I 0 4 上面 | |
| 45 | 土師器 瓢 | 口径 20.9 頸径 18.2 | | 浅黄橙 | ハケ／ハケ | 口縁部 | S I 0 4 K1付近 | |
| 46 | 土師器 瓢 | 口径 23.0 頸径 20.0 | | 浅黄橙 | | 口縁部 | S I 0 4 | |
| 47 | 土師器 瓢 | 頸径 10.0 | | にぶい黄橙 | | 体部 | S I 0 4 下層 | |
| 48 | 土師器 瓢 | 胴径 21.0 | | にぶい黄橙 | ハケ ／ヘラ削り | 体部 | S I 0 4 K1 | |
| 49 | 土師器 瓢 | 口径 19.7 頸径 16.0 | | にぶい黄橙 | ハケ／— | 口縁部 | S I 0 4 上層 | |
| 50 | 土師器 瓢 | 口径 20.6 頸径 17.0 | 砂多 | 灰黄褐 | ハケ ／ヘラ削り | 口縁部 体部 | S I 0 4 K3・4 | |
| 51 | 土師器 瓶 | 口径 20.4 | | 橙 | ハケ ／ハケ・ナデ | 口縁部 | S I 0 4 | |
| 52 | 土師器 瓶 | 口径 28.8 | | にぶい橙 | | 口縁部 | S I 0 4 | |
| 53 | 鉄滓 | 長さ 4.0 幅 3.7 厚さ 2.7 重さ 26.7 | | | | — | S I 0 4 下層 | |
| 54 | 土師器 蓋 | 端部径 15.0 | 砂多 | 並・灰 | | 端部 | P 0 1 05SGr | |
| 55 | 土師器 赤彩塊B | 台径 12.0 台高 0.5 | | 橙 | | 底部 | P 0 2 03SGr | |
| 56 | 土師器 瓢 | 口径 10.2 頸径 8.9 | 砂少 | 橙 | | 口縁部 | P 0 3 03SGr | |
| 57 | 須恵器 坯A | 口径 10.5 高さ 3.5 底径 6.2 | | 並・黄灰 | ヘラ切り／— | 1/6 | P 0 4 02NGr | |
| 58 | 須恵器 坯A | 底部 10.6 | | やや不良 にぶい黄橙 | ヘラ切り／— | 底部 | P 0 5 01SGr | |
| 59 | 土師器 外赤彩内黒塊A | 底径 6.0 | | にぶい黄橙 | ヘラ削り／— | 底部 | P 0 5 01SGr | |

| No | 遺物名称 | 寸法(cm・g) | 胎土 | 焼成・色調 | 調整(外/内) | 残存率 | 出土地点 | 備考 |
|----|------------|----------------------------------|----|------------|---------------|-----|--------------------|-------------|
| 60 | 須恵器 坯A | 口径 13.8 | | 並・灰 | | 口縁部 | P 0 6 00SGr | |
| 61 | 須恵器 坯A | 底部 7.4 | 砂多 | 並・灰黄 | ヘラ切り／— | 1/6 | P 0 6 00SGr | |
| 62 | 須恵器 坯B | 口径 13.0 | | 良・暗灰 | | 口縁部 | P 0 7 00SGr | |
| 63 | 須恵器 平瓶 | 頸径 4.2 | | 良・暗青灰 | | 頸部 | P 0 7 00SGr | |
| 64 | 須恵器 坯A | 底径 10.6 | 砂多 | 良・灰黄 | ヘラ切り／— | 底部 | 06S~07NGr 包含層 | |
| 65 | 須恵器 坯B | 台径 12.0 台高 0.6 | 砂多 | 良・灰 | | 底部 | 包含層 SI01付近 | |
| 66 | 須恵器 盤B | 台径 14.8 台高 0.6 | | 並・灰黄 | ヘラ削り ／ナデ | 底部 | 13S~14NGr 包含層 | |
| 67 | 土師器 塹A | 底径 5.7 | | 橙 | 糸切り／— | 底部 | 包含層 SI01付近 | |
| 68 | 土師器 瓢 | 口径 21.0 | | 橙 | | 口縁部 | 06SGr 包含層 | |
| 69 | 土師器 瓢 | 底径 18.2 | | 浅黄橙 | カキ目・ タタキ／— | 底部 | 05NGr 包含層 | |
| 70 | 須恵器 壺類破片 | 頸径 9.6 | | 良・青灰 | | 頸部 | 05NGr 包含層 | |
| 71 | 石錘 | 残存長 5.5 幅 6.0 厚さ 1.7 重さ 72.7 | | | | 3/5 | 包含層 SI01付近 | |
| 72 | 須恵器 坯B | 台径 12.2 台高 0.7 | 砂少 | 良・青灰 | ヘラ切り／— | 1/6 | 表採 平成11年度 | |
| 73 | 土師器 内黒塗B | 台径 6.7 台高 0.7 | | にぶい黄橙 | | 底部 | 表採 平成11年度 | |
| 74 | 須恵器 大壺 | 口径 50.0 | | 良・暗灰 | | 口縁部 | 表採 平成11年度 | |
| 75 | 須恵器 長頸瓶 | 頸径 3.2 | | 並 にぶい黄褐 | | 頸部 | 表採 平成11年度 | |
| 76 | 縄文土器 | — | | 橙 | | 体部 | 表採 平成11年度 | 中期後葉 古府式 |
| 77 | 鉄滓 | 長さ 6.0 幅 5.1 厚さ 2.8 重さ 80.0 | | | | — | 表採 平成11年度 | |
| 78 | 鉄滓 | 長さ 4.8 幅 3.4 厚さ 1.9 重さ 39.6 | | | | — | 表採 平成11年度 | |
| 79 | 須恵器 坯A | 口径 14.2 高さ 2.8 底径 10.2 | | 並・浅黄 | ヘラ切り／— | 1/6 | S K 0 1 | |
| 80 | 土師器 瓢 | 頸径 17.4 | | にぶい黄橙 | ハケ ／ヘラ削り | 体部 | P 0 9 X02~Y02Gr | |
| 81 | 土師器 鍋 | 口径 44.8 | | にぶい黄橙 | | 口縁部 | 立合調査 平成14年度 | |
| 82 | 鉄滓 | 長さ 10.0 幅 9.4 厚さ 3.1 重さ 205.3 | | | | — | 立合調査 平成14年度 | |
| 83 | 須恵器 塹B | 台径 6.3 台高 0.6 | | 良・灰 | 糸切り／— | 底部 | 表採 平成14年度 | |
| 84 | 須恵器 大壺 | 口径 46.7 | | 良・暗灰 | | 口縁部 | 表採 平成14年度 | |
| 85 | 須恵器 壺・瓶類破片 | 底径 14.0 | | 並・黄灰 | | 底部 | 表採 平成14年度 | |

第4章 まとめ

薬師遺跡は時代不詳の遺物散布地として知られていたが、平成11年度に実施された道路改良工事に伴う発掘調査及び、平成14年度に実施された道路改良工事・下水道工事・配水管布設工事に伴う発掘調査によってその一部が明らかになった。最後に、発掘調査の結果を簡単にまとめてみたい。

平成11年度の調査

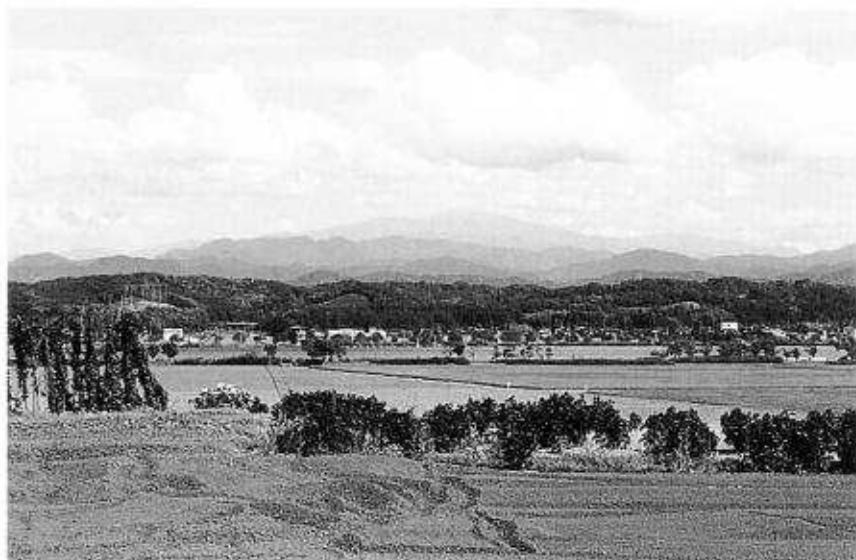
主な遺構として竪穴住居跡4軒、掘建柱建物跡3棟を確認した。出土遺物が少なく時期の確定できない遺構もあるが、全体的に見て7世紀後半から8世紀前半にかけての集落と考えられる。10SGr～12SGrにかけて谷部（試掘調査において遺構・遺物が確認されなかつたため、発掘調査は実施しなかつた。）が存在しており、集落域が南北に分かれていることを確認した。調査区周辺では9世紀代の遺物も採取されており、当遺跡では7世紀代から9世紀代にかけて連續もしくは断続的に集落が営まれていたことが予想される。また、鉄滓等が採取されていることから、鍛冶関連施設の存在も推測できる。

その他、縄文時代中期後葉（古府式）の土器や石錘が採取されている。同時期の遺構は確認されておらず詳細は不明だが、石錘の出土から木場湯での漁撈活動の様子が伺われる。当遺跡周辺では、五郎座貝塚・土百遺跡・今江五丁目遺跡・矢崎宮の下遺跡などにおいても縄文時代中期の遺物が出土している。

平成14年度の調査

主な遺構として掘建柱建物跡1棟と土坑2基を確認した。出土遺物は極めて少なく時期の判断できるものはわずかに数点であった。遺構・遺物ともに少なく、平成14年度の調査区は集落の縁辺部にあたると思われる。確認した遺構や出土遺物等から判断すると、当地には8世紀前半から9世紀後半にかけて連續もしくは断続的に集落が存在していたと考えられる。調査区より50m程東の畠地の脇で竪穴住居跡が確認されていることや、調査区の東から北東にかけての畠地に多数の遺物の散布が見られることから、調査区の東から北東にかけての範囲に集落が展開していることが予想される。

平成11年度・14年度の二度の発掘調査が実施されたが、工事の計画や後世の搅乱・削平により調査範囲が限られてしまったこと、調査区内の遺構・遺物の密度が低かったこともあり、薬師遺跡の内容を把握したとは言い難い調査結果となった。しかし、周辺の状況や発掘調査の結果からみると、薬師遺跡の大部分は現在も地下に眠っていると思われる。薬師遺跡の内容は今後の発掘調査によって明らかになるであろう。



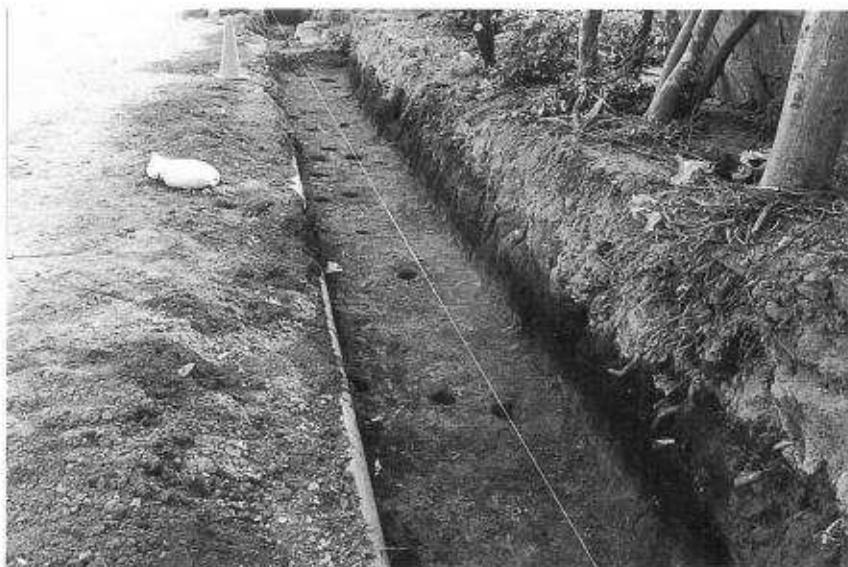
薬師遺跡より白山を望む



発掘作業風景



平成11年度調査区
00~02Gr



平成11年度調査区
09～08Gr



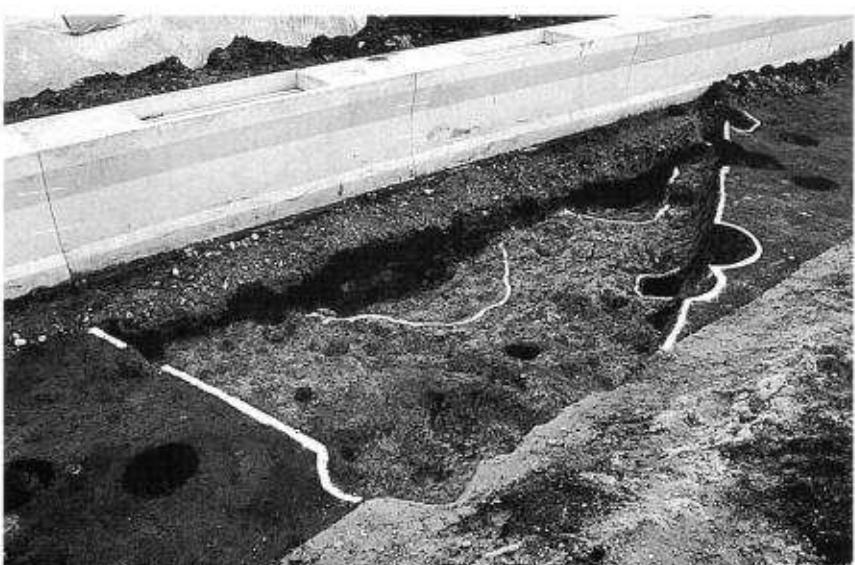
平成11年度調査区
14～15Gr



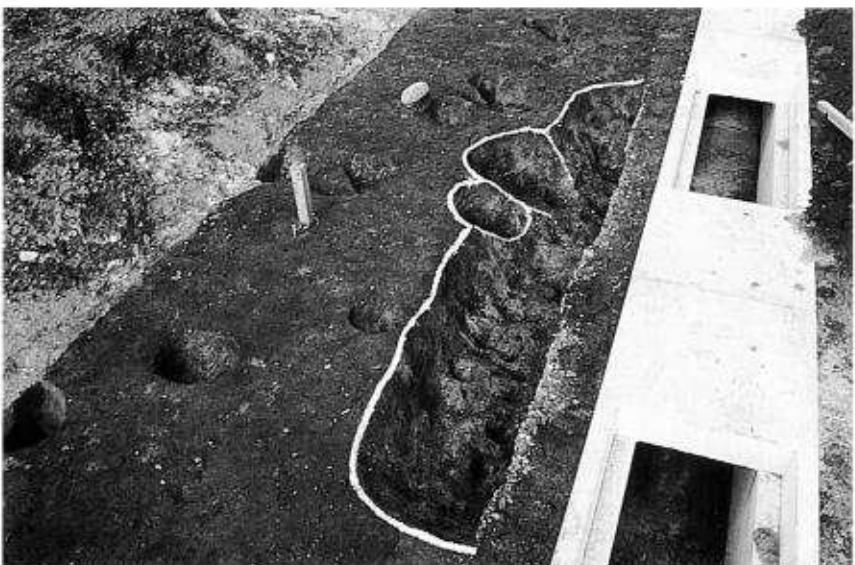
S I 0 1



S I 0 2



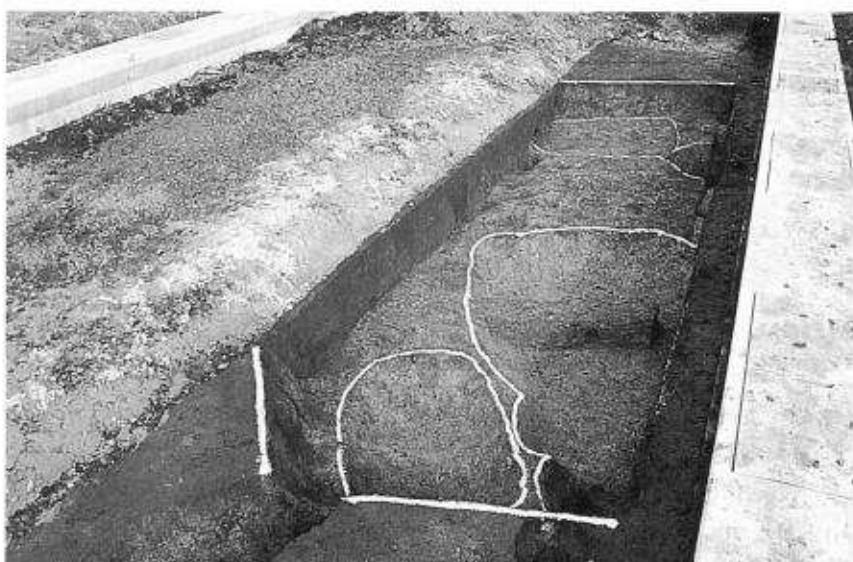
S I 0 2 床下



S I 0 3



S I 0 4



S I 0 4 床下

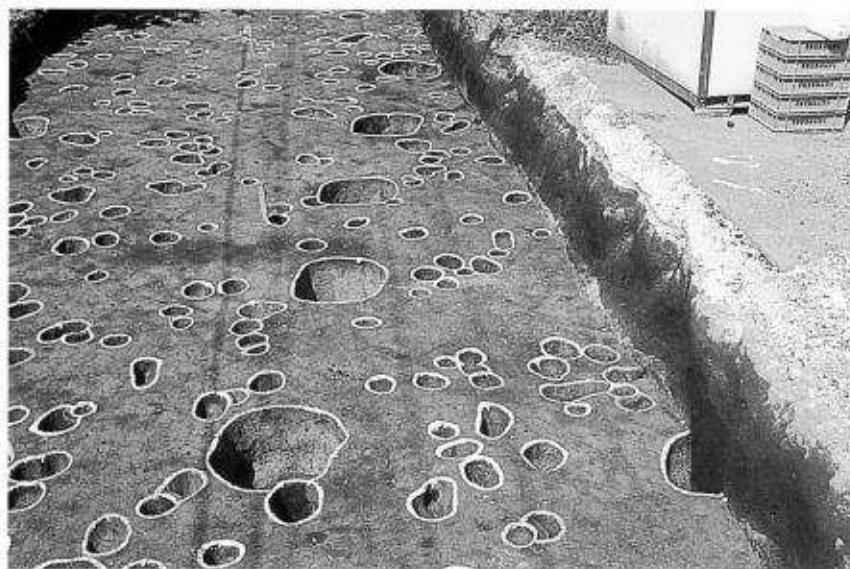


S B 0 1
S B 0 3

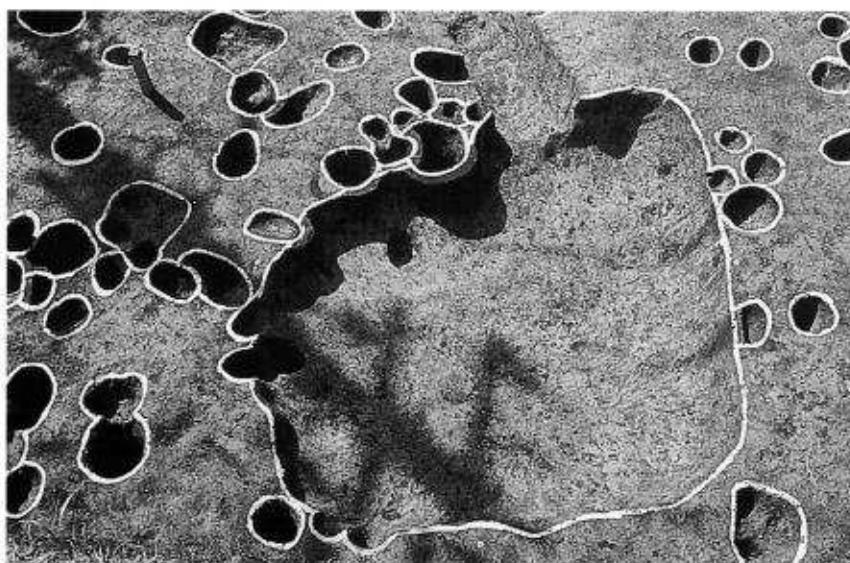


S B 0 2

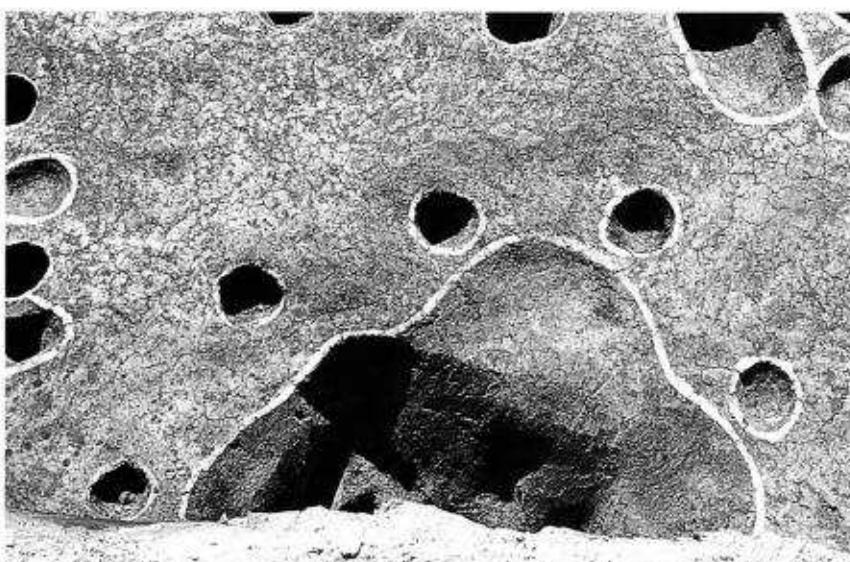




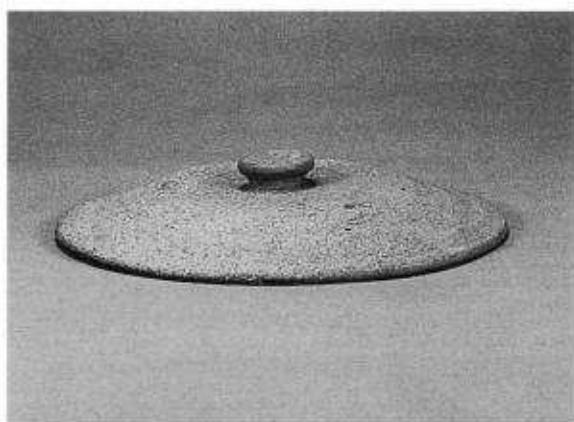
S B 0 1



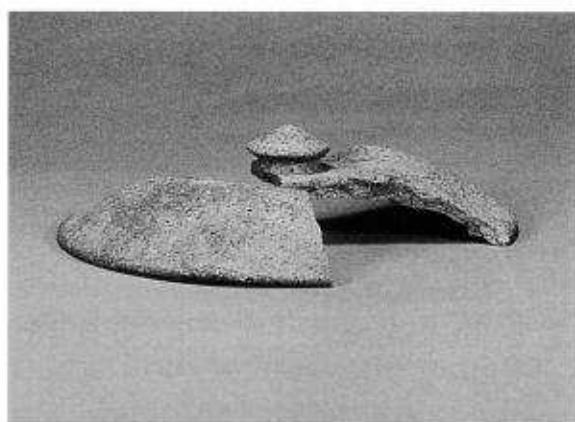
S K 0 1



S K 0 2



3



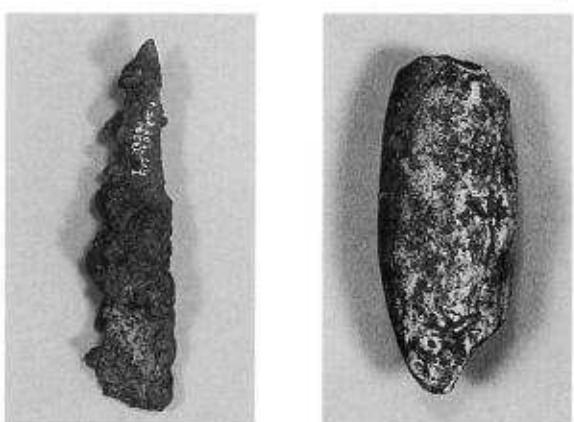
4



9



12



13



18



16



20



24



26



27



29



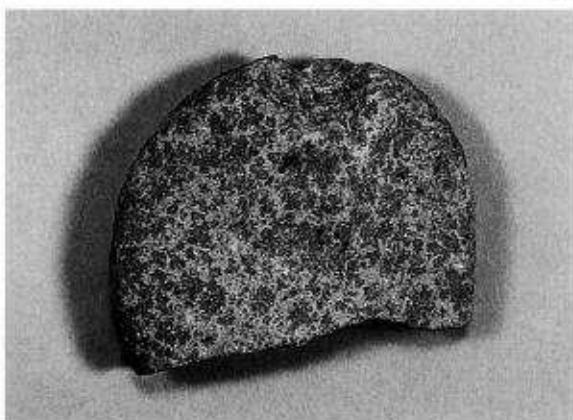
31



45



49



71



76

報告書抄録

| ふりがな | やくしいせき | | | | | | | |
|---------------|-------------------------------------|------------|---------------------------|-------------------|--------------------|--|--|----------------------|
| 書名 | 薬師遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | 道路改良工事・下水道工事・配水管布設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | | | | | | | |
| 卷次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | | | | | | | | |
| 編著者名 | 坂下義視 | | | | | | | |
| 編集機関 | 小松市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2003年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 (m ²) | 調査原因 | |
| 薬師遺跡 | 石川県小松市矢崎町 | 17203 | 03138 | 36度 21分 58秒 | 136度 26分 18秒 | 1998.11.02 ~11.25 2002.06.10 ~08.08 | 2,000m ² 900m ² | 道路改良工事、下水道工事、配水管布設工事 |
| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 薬師遺跡 | 散布地 | 縄文 | 一 | 縄文土器 | | | | |
| | 集落跡 | 飛鳥～平安 | 竪穴住居4軒 掘建柱建物4棟 土坑2基 | 須恵器 土師器 | | | | |

薬師遺跡

道路改良工事・下水道工事・配水管布設工事
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 2003年3月31日

編集・発行 石川県小松市教育委員会
〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地
TEL 0761-22-4111

印 刷 有限会社齊藤印刷
〒923-0961 石川県小松市向本折町八171
TEL 0761-21-2427
